

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	①光り輝く千葉の魅力为全国・海外に発信		コードNo.	Ⅲ-1-①
施策主務課	総合企画部報道広報課		総合計画掲載ページ	180
施策の目標	本県の様々な魅力を積極的に国内外に発信し、選ばれる千葉県を目指します。			
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	958,259千円 (9月補正後)	1,181,222千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	920,087千円	955,813千円	千円	千円

【施策の実施状況の判定】

進展が図られています・概ね進展が図られています・一部の進展にとどまっています

目標を達成した取組数	目標を概ね達成した取組数	目標に届かなかった取組数
3 (75%)	1 (25%)	()

【施策内の主な取組の実施状況】

1	トップセールスなどによる戦略的な魅力発信の推進	目標を達成
2	海外への魅力発信	目標を概ね達成
3	千葉の魅力のさらなる発見・向上と効果的な発信	目標を達成
4	移住・定住促進に向けた魅力発信	目標を達成

【政策の実施状況・上位政策への貢献】

- ・計画の指標の「千葉の魅力がテレビ・ラジオで取り上げられた件数」は、2年連続で目標を達成しています。トップセールスや在京メディア等を活用した情報発信や、農林水産物及び観光のプロモーションが一定の効果を上げているものと考えられます。
- ・主な取組の行政活動目標等の達成状況から、施策全体では進展が図られています。また、トップセールスや海外プレス向け情報発信は、千葉県ホームページのアクセス数の増加に一定の効果があったと考えられることから、国内外から選ばれる千葉県の実現に向け貢献したと考えられます。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（指標の状況、政策への貢献度を向上させるために解決すべき課題）〕

- ・「光り輝く活気にあふれた千葉県」を実現していくため、今後も国内外に向けて、認知度、信頼度、好感度を高め、千葉県が選んでもらえるようにしていく必要があります。
- ・4つの主な取り組みのうち、「海外への魅力発信」については、指標による実施状況の判定が「概ね達成」でした。これは、「海外向けHPのアクセス件数」の減少で、中国語版及び韓国語版が約3割減少したことによるものです。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・知事のトップセールスや各種メディアを通じたPR活動を戦略的に展開し、本県魅力を国内外に発信するとともに、観光や優れた企業立地環境、県産農林水産物などの千葉県の魅力を積極的に発信します。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

・地域資源を活用した交流人口の増加や移住定住など新たな人の流れをつくる取組みを推進し、県内各地域の活性化を図るため、総合企画部に地域交流推進専門監を新たに設置します。(28年度)

〔コスト(予算)〕

計 1,014,826 千円 (28年度)

・ 180,000 千円 (千葉の魅力発信推進事業)

本県の魅力を県内外に発信するため、在京メディア等を活用した広報に必要な経費を措置しました。(28年度)

〔事務改善〕

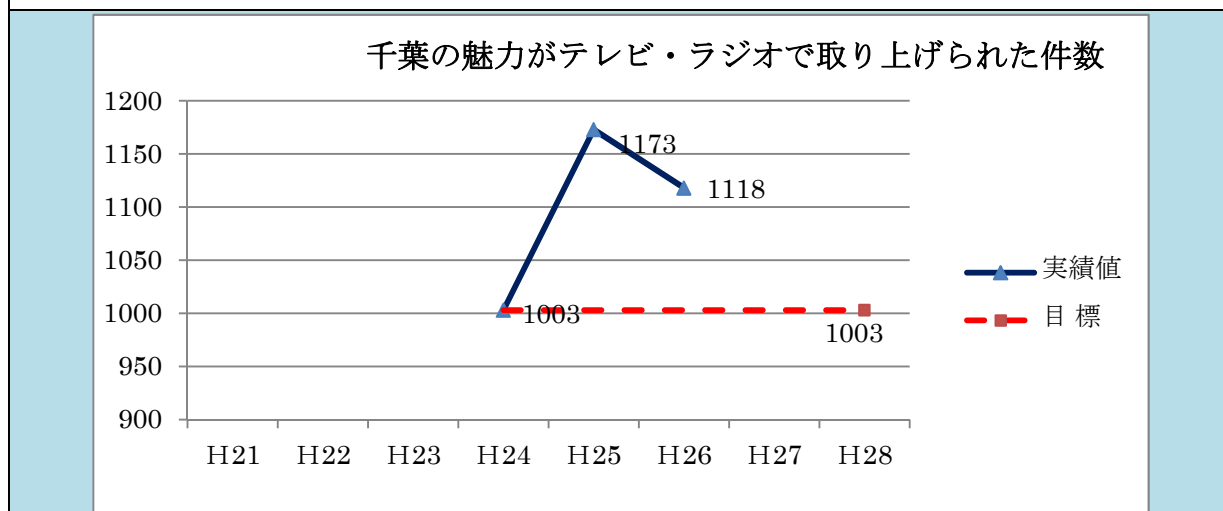
・本県の魅力を多くの方々に知ってもらうため、「千葉の魅力」を反映した映像を撮影し、その充実を図るとともに、これらを活用した番組を制作し国際放送を行うなど、広く全国、世界に向けて戦略的に発信していきます。(28年度)

・圏央道の神崎～大栄間が平成27年6月に、さらに平成28年度中に北関東地域の区間が全面開通予定のため、開通後にはアクセスが向上し来訪が見込まれる北関東地域等を対象とした団体バスツアー優待プロモーションを実施します。(28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	① 光り輝く千葉の魅力を全国・海外に発信		① コードNo.	Ⅲ-1-①			
施策主務課	総合企画部報道広報課		総合計画掲載ページ	180			
【計画に掲げた政策の指標（この施策に関連する指標の抜粋）】							
指標名： 千葉の魅力がテレビ・ラジオで取り上げられた件数 (単位：件)							目 標
21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度 (28年度)
			1,003	1,173	1,118		増加を 目指します

* 太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 トップセールスなどによる戦略的な魅力発信の推進			コードNo.	Ⅲ-1-①-1
担当課	総合企画部報道広報課、国際課、商工労働部 経済政策課、観光企画課、観光誘致促進課、 農林水産部流通販売課、水産局水産課			総合計画掲載ページ	181
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	646,232千円 (9月補正後)	721,994千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	640,921千円	694,061千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標を達成		

【主な実施事項と成果】
<p>1 県のイメージアップ、観光客の増加や県産農林水産物の販路拡大、企業誘致等を図るため、知事が国内外のセールスプロモーションや地域のイベント、各種メディアに登場することによって、より効果的に千葉の魅力を多くの人々に発信しました。</p> <p>2 首都圏を主な対象に、在京キー局のテレビ番組（フジテレビ「千葉の贈り物 まごころ配達人」）やラジオ放送（TBS「千葉ドリーム もぎたてラジオ」）、新聞広告、交通広告等を活用し、千葉の魅力を発信しました。</p> <p>3 「千葉県ホームページ」をより見やすくするための平成27年度のリニューアルに向けて、準備作業を進めました。</p> <p>4 マスコットキャラクター「チーバくん」を活用し、各種イベントへの参加（チーバくんキャラバン隊の派遣250件等）や、新たに夏休み期間中に中央博物館で「チーバくんと博物館探検」（参加者510人）を実施する等、より効果的に千葉の魅力を多くの人々に印象づけました。</p>
【今後の課題と取組方針】
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き時機を捉えた情報発信を行い、より積極的な魅力発信に努める必要があります。 ・大消費地に隣接する「食の宝庫」であり、多様な観光資源を有する等の高いポテンシャルを活用するため、首都圏及び全国における、県内観光地や県産農林水産物のさらなる知名度の向上を図る必要があります。 <p>〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れて、トップセールスや各種メディアを活用した戦略的な魅力発信に取り組みます。 ・首都圏を中心に全国に向けて、千葉県の観光や農林水産物の魅力などを積極的にPRすることにより、観光客の増加と県産農林水産物の販路拡大を図ります。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 667,603 千円（28年度）

- ・ 180,000 千円（千葉の魅力発信推進事業）

本県の魅力を県内外に発信するため、在京メディア等を活用した広報に必要な経費を措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

・引き続き千葉の魅力をトップセールスや各種メディア、県ホームページ、イベント等を活用して広く国内外にPRしてまいります。（28年度）

- ・平成28年10月に開催する「ちばアクアラインマラソン2016」を活用しながら、千葉の魅力を戦略的、効果的に全国に発信することにより、本県のブランド力を高め、本県への観光客誘客や本県特産物・農水産物の販売促進を図ります。（28年度）

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 トップセールスなどによる戦略的な魅力発信の推進	コードNo.	Ⅲ-1-①-1
担当課	総合企画部報道広報課、国際課、商工労働部経済政策課、観光企画課、観光誘致促進課、農林水産部流通販売課、水産局水産課	総合計画掲載ページ	181

【指標による取組の判定】

指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：2 (100%)]

目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

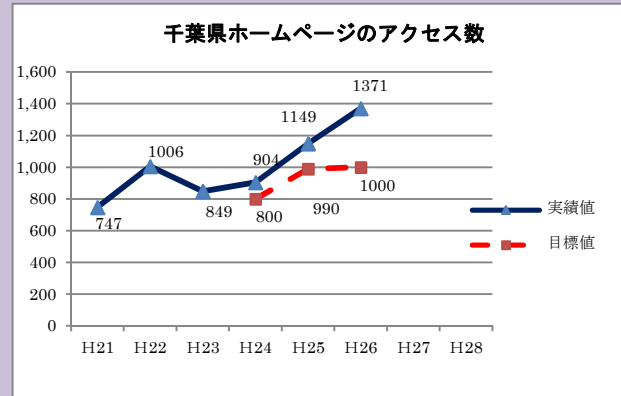
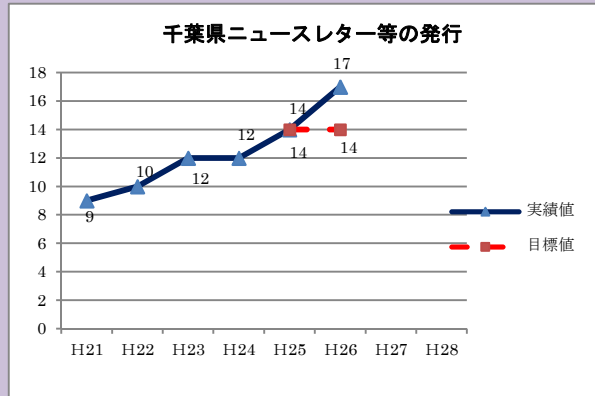
【主な取組の指標】

指標名：千葉県ニュースレター等の発行 (単位：回)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	9	10	12	12	14	17		
目標値					14	14		

指標名：千葉県ホームページのアクセス数 (単位：万件/月)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	747	1,006	849	904	1,149	1,371		
目標値				800	990	1,000		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 海外への魅力発信			コードNo.	Ⅲ-1-①-2
担当課	総合企画部報道広報課、国際課、商工労働部 観光誘致促進課、農林水産部流通販売課、水 産局水産課			総合計画掲載ページ	181
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	114,090千円 (9月補正後)	104,869千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	96,067千円	92,764千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成		

【主な実施事項と成果】
<p>1 知事が、平成26年10月に県内の企業・事業者とともに台湾を訪問し、県産農林水産物、観光客誘致などのトップセールスを行いました。(台湾訪日教育旅行：5校増加)</p> <p>2 初めて、水産物を中心とした海外プロモーションを、タイにおいて千葉県漁業協同組合と実施しました。</p> <p>3 成田空港を有する優位性等を生かして外国人観光客を積極的に誘致するため、海外国際観光展でのPRや観光ミッション団の派遣、他県と連携した広域ルートの開発等を実施しました。 特にビザの緩和等で大幅に訪日旅行者が増加している東南アジアに対しては、タイ、マレーシア及びインドネシアを選定し、積極的な観光プロモーションに取組みました。</p> <p>4 県独自で運営していたホームページを廃止し千葉県観光物産協会サイトと統合することにより、本県の観光情報を一元的に発信しました。また、外国語のページでは、新たにマレー語のページを準備するとともに、外国語対応のFacebook(平成26年9月開設)も備えるなど、東南アジアなど海外からの観光客への訴求力を強化しました。</p> <p>5 外国特派員に対し、県や県内企業等の取り組み、観光・イベント情報を発信しました。(プレスツアー、ウェブサイト等)</p> <p>6 県内在住の留学生等の外国人20名を「チーバくん大使」として任命し、本県の魅力をブログ等で自発的に海外に発信してもらう「草の根情報発信推進事業」を実施しました。</p>
【今後の課題と取組方針】
<p>[課題(より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食の宝庫」であり、多様な農業資源を有する等の高いポテンシャルを活用するため、海外における県産農林水産物の知名度及び購入意識を向上させる必要性があります。 ・成田空港を有しながらも、空港から県内各観光地への交通アクセス等の問題から、現在のところ、外国人旅行者を対象とした、県内を観光ルートとするツアーが少ないという状況にあります。 <p>[取組方針(課題を解決するための具体的な方策)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知事のトップセールスや県産品フェアなどの機会を活用し、知名度の向上を図るとともに、県産品のおいしさを現地の方々に直接訴え、販路の拡大を図ります。

- ・外国人旅行者を対象にツアー参加者を募集している事業者向けに、県内のモニターツアーを実施します。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

- ・訪日教育旅行の受入体制強化のため、平成27年10月から嘱託を2名追加配置し、平成28年度においても継続して配置します。(27年度・28年度)

〔コスト（予算）〕

計 188,238 千円（28年度）

- ・43,094 円（世界に向けた千葉の魅力発信推進事業）
千葉の魅力を海外に向けて発信するために必要な経費を措置しました。(28年度)
- ・108,916 千円（海外メディアを活用した観光情報発信事業 等）
訪日外国人観光客誘致促進のために必要な経費を措置しました。(28年度)

〔事務改善〕

- ・本県の魅力を多くの方々に知ってもらうため、「千葉の魅力」を反映した映像を撮影し、その充実を図るとともに、これらを活用した番組を制作し国際放送を行うなど、広く全国、世界に向けて戦略的に発信していきます。(28年度)
- ・更なる外国人観光客誘致のため、新たに、台湾にて開催された旅行博へ出展及び商談会へ参加するとともに、英語、中国語（繁体字）、タイ語、マレー語による観光ポスターやパンフレットを作成しました。(27年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 海外への魅力発信	コードNo.	Ⅲ-1-①-2
担当課	総合企画部報道広報課、国際課、商工労働部観光誘致促進課、農林水産部流通販売課、水産局水産課	総合計画掲載ページ	181

【指標による取組の判定】

指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：1 (50%)]
 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

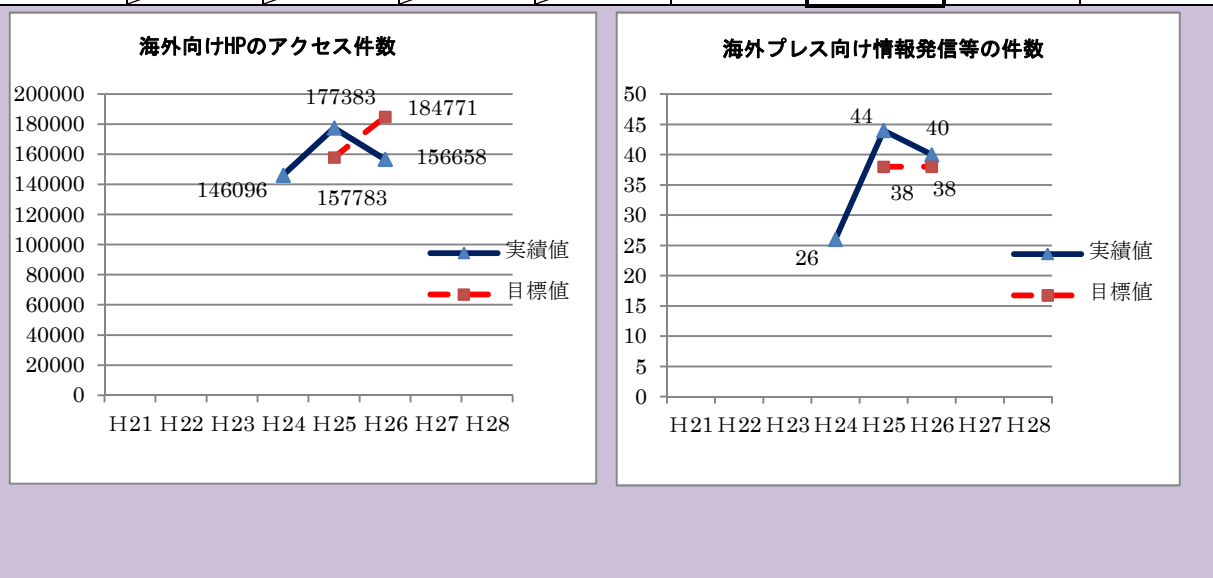
【主な取組の指標】

指標名：（補）海外向けHP(県庁HP)のアクセス件数 (単位：件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	/	/	/	146,096	177,383	156,658		
目標値	/	/	/	/	157,783	184,771		

指標名：海外プレス向け情報発信等の件数 (単位：件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	/	/	/	26	44	40		
目標値	/	/	/	/	38	38		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 千葉の魅力の更なる発見・向上と効果的な発信			コードNo.	Ⅲ-1-①-3
担当課	総合企画部報道広報課、環境生活部県民生活・文化課、商工労働部企業立地課、観光誘致促進課、農林水産部流通販売課、畜産課、水産局水産課、教育庁教育振興部文化財課			総合計画掲載ページ	182
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	196,857千円 (9月補正後)	353,451千円 (当初予算額)	千円 ()	千円 ()	
決算額	182,270千円	168,135千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標を達成		

【主な実施事項と成果】

- 1 県産農林水産物の販路を開拓するため、量販店等で千葉県フェアを実施するとともに、「千葉ブランド水産物」、「チバザビーフ」及び「チバザポーク」の認定等により県産品のイメージアップ、消費拡大を図りました。また、「ちばの野菜伝道師」を任命し、県のホームページ等で、県産野菜の魅力を消費者に発信しました。
- 2 夏、秋、早春の季節に応じた観光キャンペーンを軸に、アクアライン料金割引の継続及び圏央道延伸効果を活用して、年度当初から年間を通じた積極的なプロモーション活動や、マスメディア（在京記者取材会、放送メディア）や交通広告、地域情報誌等の媒体を効果的に活用し積極的なプロモーションを展開するとともに、三井アウトレットパーク木更津の「チーバくんプラザ」を活用し、観光案内や観光イベントの開催などにより、県内各地への誘客を図りました。
- 3 本県の持つ立地優位性を活かした戦略的な企業誘致を推進するため、知事等が本県の魅力を紹介する企業誘致セミナーを東京と大阪の2会場で開催しました（出席者276名、159社）。
- 4 県の文化情報を発信するホームページ「ちば文化交流ボックス」では、掲載する文化情報を順次、最新の情報に更新し、県民が必要な情報にアクセスしやすい環境を整えたことからアクセス件数が目標値を上回りました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・季節に応じた観光キャンペーンの効果をより高めるためには、圏央道の延伸や2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催など、観光に有利な外的要因の機会を捉えて、それらを積極的かつ最大限に活用したプロモーションの実施が必要となります。
- ・平成26年9月にリニューアルした県観光ホームページについては、アクセス数が指標の目標値を下回った。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・圏央道（神崎IC～大栄JCT間）の開通により本県へのアクセスがさらに向上することから、北関東地域等に向けた観光PRイベントやスタンプラリーの実施などアクアライン及び圏央道を活用した観光プロモーションを実施します。

・県観光ホームページのアクセス数の減少の原因の分析を進めるとともに、新設した Facebook も活用し、本県の魅力的な情報を幅広く、タイムリーに発信します。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 154,797 千円（28年度）

・2,955 千円（水産物販売力強化事業）

「農林水産物販売促進月間」や地域イベント等において、県産水産物のPR活動に必要な資材作成の経費を引き続き措置しました。（28年度）

・8,000 千円（「東京食肉市場まつり 2016」プロモーション活動）

「東京食肉市場まつり 2016」に参加し、千葉県銘柄牛肉である「チバザビーフ」の知名度向上を図るために必要な経費を措置しました。（28年度）

・28,925 千円（観光ちば全国発信事業の一部）

本県の知名度向上や観光客の一層の増加を図るため、観光プロモーション推進に必要な経費を措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

・輸出促進を検討する生産者と流通関係者、県等との情報の共有化を図るとともに、県産水産物の販売拡大に向けたPR等を行い、引き続き県産水産物の魅力の発信に取り組みます。（28年度）

・27年度は、マレーシアでサツマイモ輸出促進プロジェクトを実施し、焼き芋機を使った試食販売に加え、新たに、現地の人気動画クリエイターや、食に詳しい著名ブロガーによる情報発信などにも取り組みました。

今後は、こうした取組の成果や課題を十分に分析した上で、マレーシアのクアラルンプール以外の都市や、新たな国・地域への販路開拓を図っていきます。（28年度）

・平成28年度中に圏央道の北関東地域の区間が全面開通予定のため、アクセス向上により来訪が見込まれる北関東地域等を対象とした団体バスツアー優待プロモーションを実施するとともに、秋の観光シーズンに、鉄道を活用した周遊観光プロモーション事業や千葉県道路公社有料道路の無料開放事業を実施します。（28年度）

・圏央道の開通、成田空港の第3旅客ターミナルビルの供用開始などポテンシャルの向上を活かした企業誘致を推進するため、「企業誘致セミナー」によるトップセールスなどを通じ、本県の魅力や立地優位性を広くPRしていきます。（28年度）

・ホームページそのものの認知度向上のため、パンフレットやキャンペーンPRのためのリーフレットなどを作成する際に、ホームページのPRを記載したり、観光プロモーションのイベント時などに、ホームページを紹介するなどして、さらなる周知を図ります。（28年度）

・個々の観光施設・イベント等について、ホームページに掲載している情報の入力内容を見直し、検索サイト等での検索結果としてより上位に表示されるよう、情報の追記や修正を行います。

（28年度）

・ホームページのリピーターを増やすために、千葉県に関する幅広い魅力的な情報の発信を継続し、常に新たな情報を発信したり、多様なコンテンツを作成し、掲載します。（28年度）

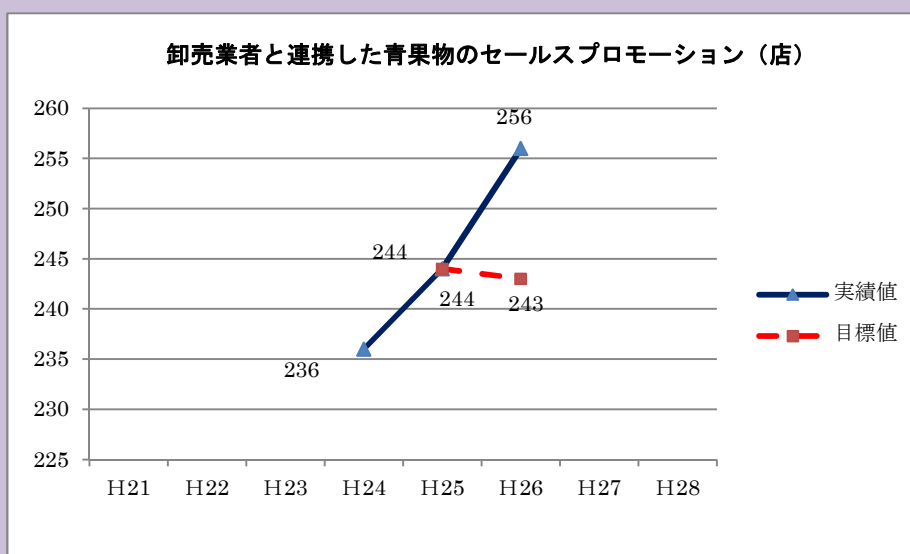
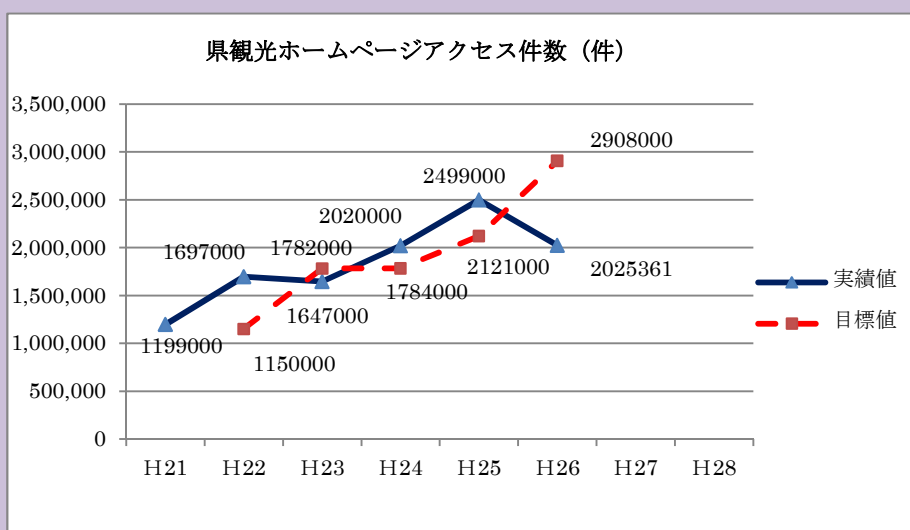
千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 千葉の魅力の更なる発見・向上と効果的な発信					コードNo.	Ⅲ-1-①-3	
担当課	総合企画部報道広報課、環境生活部県民生活・文化課、商工労働部企業立地課、観光誘致促進課、農林水産部流通販売課、畜産課、水産局水産課、教育庁教育振興部文化財課					総合計画掲載ページ	182	
【指標による取組の判定】								
指標の数：9 [うち目標を達成した指標の数：7 (78%)]								
<input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成 ・ <input type="checkbox"/> 目標を概ね達成 ・ <input type="checkbox"/> 目標に届かず								
【主な取組の指標】								
指標名：(補)「ちば文化交流ボックス」へのアクセス件数 (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	110,257	219,827	64,141	160,287	194,348	380,407		
目標値		250,000	200,000	200,000	160,000	160,000		
指標名：(補) デジタルミュージアムへのアクセス件数 (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				37,349	37,265	41,620		
目標値					38,000	38,000		
指標名：(補) ふさの国文化財ナビゲーションシステムへのアクセス件数 (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				14,749	17,331	20,500		
目標値					15,200	16,500		
指標名：県観光ホームページアクセス件数 (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	1,199,000	1,697,000	1,647,000	2,020,000	2,499,000	2,025,361		
目標値		1,150,000	1,782,000	1,784,000	2,121,000	2,908,000		
指標名：県民へ提供した文化情報の件数 (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				32	34	58		
目標値					40	40		
指標名：商談会等における商談成立数 (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				136	147	134		
目標値					145	155		

指標名：「教えてちばの恵み」ウェブサイトの閲覧数 (単位：万件/月)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				2.8	3.8	4.8		
目標値					3.0	3.3		

指標名：農林水産物直売所などによる交流拠点の魅力向上のための研修会受講者数 (累計) (単位：人)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値					344	673		
目標値					200	400		

指標名：卸売業者と連携した青果物のセールスプロモーションの実施 (単位：店)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				236	244	256		
目標値					244	243		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 移住・定住促進に向けた魅力発信		コードNo.	Ⅲ-1-①-4
担当課	総合企画部政策企画課		総合計画掲載ページ	183
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	1,070千円 (9月補正後)	908千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	829千円	853千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を達成	

【主な実施事項と成果】

移住・定住の促進を図るため、市町村連携のもと、都内で開催された「JOIN 移住・交流&地域おこしフェア」をはじめとする県が加入する2団体のイベントにブース出展するとともに、会場を借用した千葉県単独の「移住相談会」（27件相談）を開催し、地域の魅力のPRや交通、医療、教育など情報の発信、移住相談受け付けを実施しました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

移住・定住施策については、特に南房総・いすみ地域で施策を展開していますが、今後は県内全域において少子高齢化の進展が考えられることから、各地域の実情に合わせた移住・定住施策の推進を図ることが重要です。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

地域の活性化を図るために、今後とも引き続き移住・定住の情報を関係団体主催の各種イベントやホームページ、県民だよりなど様々な手段で発信し、地域の魅力のPRや市町村の行う取組の支援をしていきます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

・地域資源を活用した交流人口の増加や移住定住など新たな人の流れをつくる取組みを推進し、県内各地域の活性化を図るため、総合企画部に地域交流推進専門監を新たに設置します。（28年度）

〔コスト（予算）〕

計4,188千円（28年度）

・移住定住の促進を更に図るため、必要な経費を措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

・「ふるさと暮らし情報センター」に本県専用のブースを新たに設置するなど、移住・定住に向けた情報発信を積極的に行うとともに、市町村移住相談窓口の機能強化を図るため、市町村担当職員向けに研修会を開催します。（平成28年度）

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 移住・定住促進に向けた魅力発信	コードNo.	Ⅲ-1-①-4
担当課	総合企画部政策企画課	総合計画掲載ページ	183

【指標による取組の判定】

指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：2 (100%)]

目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

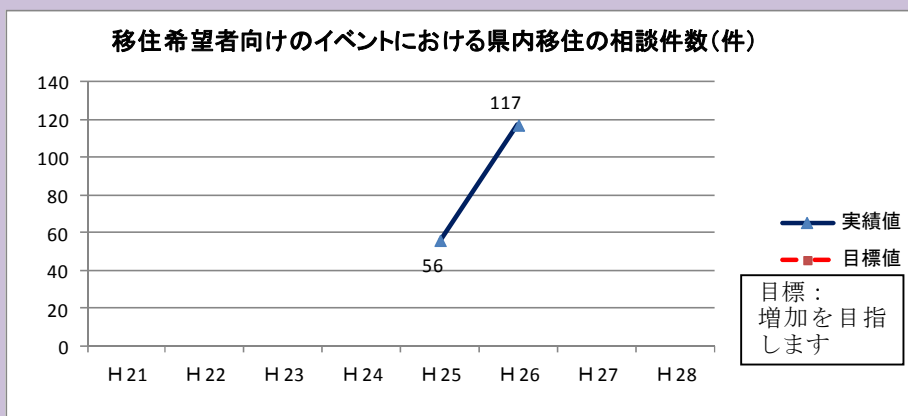
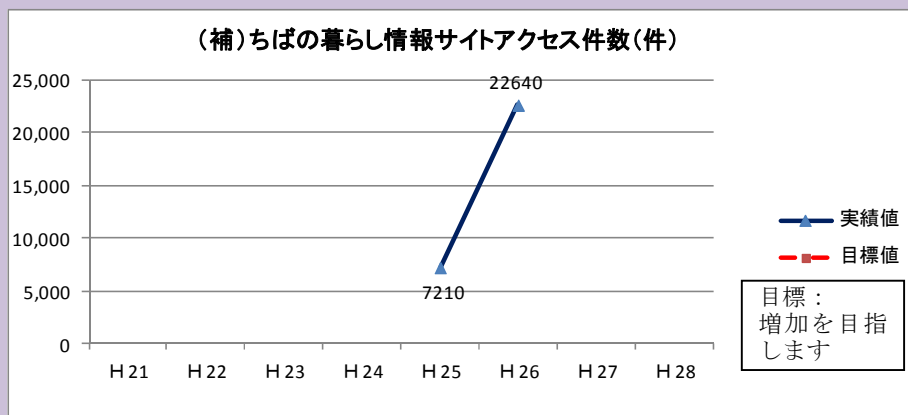
【主な取組の指標】

指標名：（補）ちばの暮らし情報サイトアクセス件数 (単位：件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				1,555	7,210	22,640		
目標値					3,000	増加を 目指します		

指標名：移住希望者向けのイベントにおける県内移住の相談件数 (単位：件)

	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
実績値					56	117		
目標値						増加を 目指します		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	②国際交流の推進と海外取引・外国人誘客の促進		コードNo.	Ⅲ-1-②
施策主務課	総合企画部国際課		総合計画掲載ページ	184
施策の目標	国際交流・協力の活発化、県内企業の海外取引や県産農林水産物輸出の促進、観光・MICE誘致などの展開や、外国人県民にも暮らしやすい多文化共生社会づくりを進め、国際社会とともに発展する県づくりを推進します。			
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	2,102,696千円 (9月補正後)	2,365,082千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	1,724,900千円	2,021,138千円	千円	千円
【施策の実施状況の判定】				
進展が図られています・概ね進展が図られています・ 一部の進展にとどまっています				
目標を達成した取組数		目標を概ね達成した取組数	目標に届かなかった取組数	
1 (20%)		2 (40%)	2 (40%)	
【施策内の主な取組の実施状況】				
1	国際交流、国際協力の活発化			目標に届かず
2	外国人県民にも暮らしやすい県づくり			目標に届かず
3	県内企業の海外取引と県産農林水産物の輸出の促進			目標を達成
4	海外プロモーション等による観光客の誘致促進			目標を概ね達成
5	MICEの誘客促進と幕張メッセの活用			目標を概ね達成
【政策の実施状況・上位政策への貢献】				
<ul style="list-style-type: none"> ・姉妹州関係にあるウィスコンシン州や友好関係にあるデュッセルドルフ市との国際交流、ラオス・ヴィエンチャン都に対する水資源環境分野、ベトナムに対する工業教育分野で展開している国際協力等の促進により、計画の指標の「県と連携し国際交流・協力活動を展開している団体数」は、順調に増加しています。 ・公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー（CCB-IC）を中心に、市町村や関係機関との連携により、MICEの誘致に取り組み、37件の国際会議の誘致に成功しました。 ・タイ・バンコク及びマレーシア・クアラルンプールで、梨や水産物など県産農水産物のPR活動を行うとともに、生産者団体等による主体的な輸出の取組に対し補助金を交付することにより、県産農産物の輸出を促進しました。 ・「外国人テレホン相談」や災害時に対応するための「外国人サポーター養成講座の開催」、外国人集住地域等において、外国人が犯罪や事故に巻き込まれないための防犯指導や交通安全指導等を実施しました。 ・これらの取組により、外国人県民への情報提供や相談対応等が充実し、また、県産農林水産物の輸出に取り組む生産者団体数や幕張メッセでの催事開催件数等が増加していることから、国際社会とともに発展する県づくりが進み「千葉の輝く魅力づくり」に貢献したと考えられます。 				

【今後の課題と取組方針】

〔課題（指標の状況、政策への貢献度を向上させるために解決すべき課題）〕

- ・県の国際交流・協力活動のネットワーク会議に参加する団体数が昨年度に比べ減少したため、広報・情報提供を充実させる必要があります。
- ・県産農林水産物の東南アジアでの知名度はまだ十分ではないため、販路拡大・定着に向け、継続した販売促進活動の取組が必要です。
- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、今後国内外から多くの方が首都圏を訪れることが予想されます。この機会を確実に捉え、首都圏を実際に訪れる方々や日本に興味を持っている方々に、千葉の魅力を戦略的にPRし、本県へのMICE誘致につなげていく必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・CCB-IC、JICA 千葉支部、市町村などと協力して、国際交流協会などの国際交流・協力関係の民間団体への周知を図っていきます。
- ・県産農林水産物・食品の輸出事業の核となっている「千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会」の活動を継続的に支援すると同時に、生産者団体等による新たな輸出の取組を支援します。
- ・MICE の誘致については、CCB-IC をはじめ関係機関との連携の強化を図り、より一層の誘致競争力の強化に努めてまいります。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックの大会の成功と開催効果の全県への波及などに向けた取組を進めるため東京オリンピック・パラリンピック推進課を創設します。(28年度)
- ・訪日教育旅行の受入体制強化のため平成27年10月から嘱託を2名追加配置し、平成28年度においても継続して配置していきます。(27年度)

〔コスト（予算）〕

計 2,526,207 千円 (28年度)

- ・国際交流・協力の活発化、県内企業の海外取引と県産農林水産物の輸出の促進、観光客・MICEの誘致等の展開や、外国人県民にも暮らしやすい多文化共生社会づくりを進め、国際社会とともに発展する県づくりを推進するために必要な経費を措置しました。(28年度)

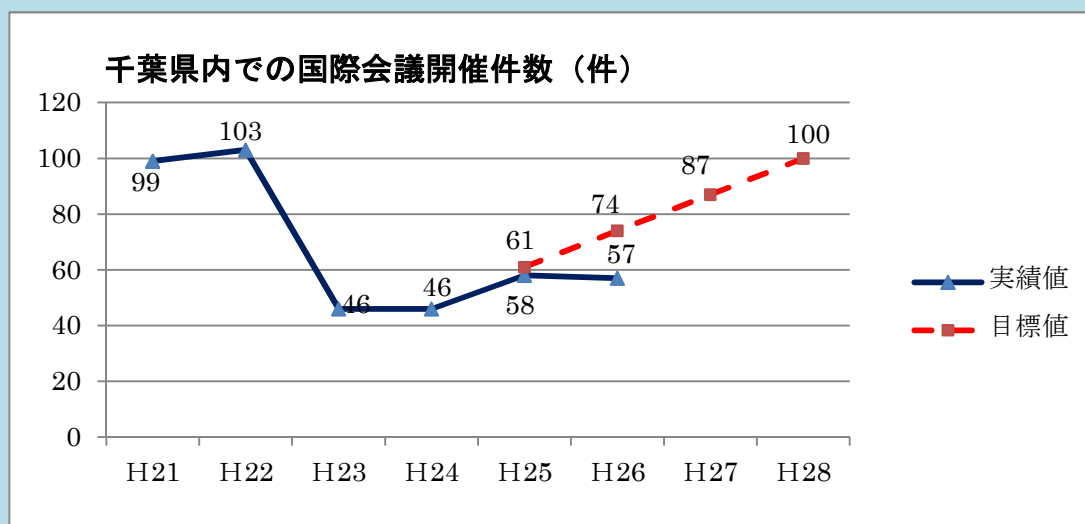
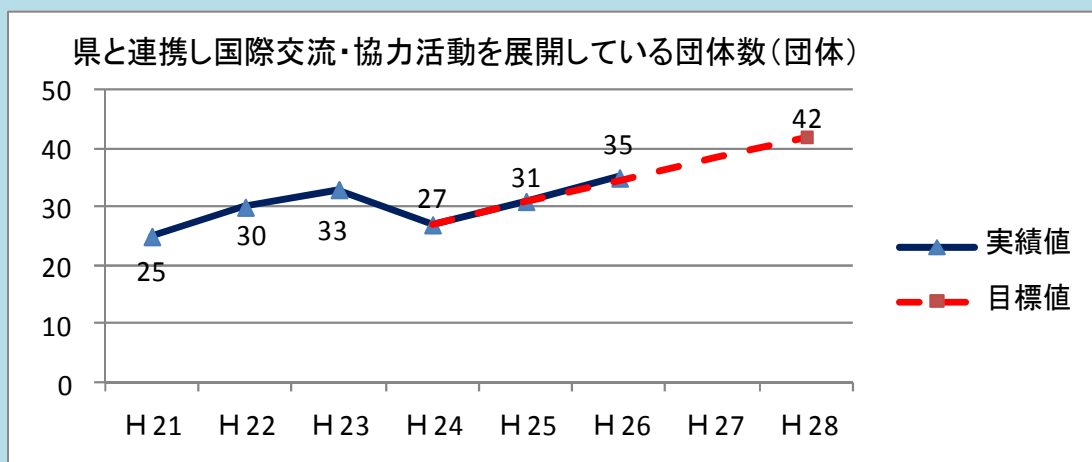
〔事務改善〕

- ・国際交流・協力活動のネットワーク化の推進について、CCB-IC、JICA 千葉支部、市町村などと協力して、国際交流・協力関係の民間団体への一層の周知に努めます。(28年度)
- ・知事のトップセールスのフォローアップのために、訪問した国で開催される見本市、展示会等に「千葉県ブース」を設け、県内中小企業に参加していただきます。(28年度)
- ・台湾からの更なる観光客誘致のため、新たに、台湾にて開催された旅行博へ出展及び商談会へ参加しました。(27年度)
- ・海外でのPR効果アップのため、英語、中国語（繁体字）、タイ語、マレー語による観光ポスターを作成しました。(27年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	②国際交流の推進と海外取引・外国人誘客の促進	コードNo.	Ⅲ-1-②
施策主務課	総合企画部国際課	総合計画掲載ページ	184
【計画に掲げた政策の指標（この施策に関連する指標の抜粋）】			
指標名： 県と連携し国際交流・協力活動を展開している団体数			（単位：団体）
21年度	22年度	23年度	24年度
25	30	33	27
25年度	26年度	27年度	28年度
31	35		
			（28年度）
			42
指標名： 千葉県内での国際会議開催件数			（単位：件）
21年	22年	23年	24年
99	103	46	46
25年	26年	27年	28年
58	57		
			（28年）
			100

*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 国際交流、国際協力の活発化		コードNo.	Ⅲ-1-②-1
担当課	総合企画部国際課、政策企画課、教育庁企画管理部教育政策課、教育振興部指導課		総合計画掲載ページ	185
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	46,873 千円 (9月補正後)	126,912 千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	34,272 千円	66,169 千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標に届かず	

【主な実施事項と成果】
<p>1 友好関係にあるドイツ・デュッセルドルフ市で開催された文化・市民交流祭「日本デー」で千葉県ブースを出展し（5月）、本県のPRを行いました。また、同地を本県のスポーツ団体が訪問（5月）、同市のスポーツ団体の来県（7月）がありました。以上、活発な交流を展開し、両地域の友好が一層深まるとともに、日本・千葉県の知名度や理解の向上につながりました。</p> <p>2 ウィスコンシン州友好使節団を受入れ、ホームステイ等を通じて、県民との交流を深めました。特に、文化グループは成田市、茂原市を中心に交流し、教育グループは県内大学を視察し、学生との交流も行いました。科学・技術グループは、都市農業、環境分野の専門家2名が千葉大学柏の葉キャンパスや植物工場、農事組合法人等への視察等を行いました。</p> <p>3 ラオス・ヴィエンチャン都で実施している国際協力については、同都への専門家の派遣（11月、1月）及びヴィエンチャン都職員の受入（7月）を実施し、水資源環境分野での技術移転に貢献しました。</p> <p>4 工業教育における国際交流として、県内の工業高校教員の派遣やベトナムからの研修生の受入れを行い、技術交流を図りました。</p> <p>5 アジア経済研究所の協力により公立校3校、私立校5校の計8校で「幕張アジアアカデミー」を実施しました。従来の海外行政官等の自国文化の紹介に加え、高校側のリクエストを一部加えてテーマを設定することにより高校生が興味を持ちやすい内容となりました。</p> <p>6 高校生と海外からの留学生や留学経験者等との交流会（23回、参加者約3,100人）、国際社会で経験豊富な講師による講演会等（21回、参加者約11,000人）を県内の18高校で実施し、海外の社会・文化・生活や自然環境に関する興味・関心が向上しました。</p> <p>7 高校生海外留学助成事業では、グローバル人材の育成を図るため、留学を希望する高校生の費用の一部を助成しました。また、英語教育強化推進事業により、英語の使用機会の大幅な拡充やモチベーションの一層の向上を図り、県全体の英語教育の改善を図りました。</p> <p>8 海外から語学指導や国際交流の業務を行う青年を招致するJETプログラムについて、県立高校や県内市町村の活動を支援するため、参加者を対象とする新任者研修（24名）、地域別研修（71名）、継続・終了者研修（31名）などを行いました。自主的な研修を重視することで授業プランや教材面の情報交換が活発に行われ、日頃の授業の改善等につながりました。</p>

- 9 県内在住の留学生等の外国人 20 名を「チーバくん大使」として任命し、本県の魅力をブログ等で自発的に海外に発信してもらう「草の根情報発信推進事業」を実施しました。4 回の県内ツアーを通じて本県の魅力を知ってもらい、534 件の紹介記事掲載に対して、14,900 件の反響コメントの寄稿があり、またマスコミでも多く取り上げられるなど、本県の PR 並びに本県の魅力の情報発信につながりました。
- 10 東京オリンピック・パラリンピックの開催効果を本県の一層の発展につなげるため、官民連携組織である「2020 年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA 推進会議」を設立し、「オール千葉」体制で推進すべき取組をとりまとめた戦略を策定しました。
- 11 パラリンピックのキャンプ誘致に向け、パラリンピック競技の知名度を向上させ、地域の機運を醸成するために、選手と県民との交流会（県内 4 か所、参加者 690 名）を実施しました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・県の国際交流・協力活動のネットワーク会議に参加する団体数が昨年度に比べ減少したため、広報・情報提供を充実させる必要があります。
- ・学校教育において、多様な文化を認め合う国際社会の担い手の育成を推進するため、工業教育における国際交流、高校生と留学生等の交流会等に関する取組を県内に広げていく必要があります。
- ・高校生海外留学助成事業は、今年度は 7 名であったため、今後はさらに多くの生徒の留学を支援することを検討する必要があります。
- ・戦略に掲げた取組を実行していくため、関係団体間の連携・調整を図る必要があります。
- ・パラリンピック競技の一層の普及を図るため、交流会などの事業を県内各地へ拡大させていく必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー（CCB-IC）、JICA 千葉支部、市町村などと協力して、国際交流協会などの国際交流・協力関係の民間団体への周知を図っていきます。
- ・高校生等の工業分野における技術交流や国際交流を促進するため、JICA「草の根技術協力事業」を活用し、事業に協力する高校が拡大するよう働きかけていきます。
- ・高校生と留学生等の交流会、交流会・講演会等の実施校が優れた取組を紹介する成果発表会の参加児童生徒数が増加するよう働きかけていきます。
- ・高校生海外留学助成事業は、今年度から長期に加え、短期の留学が可能となりました。今後はその周知も図り、支援の拡充を図っていきます。
- ・「2020 年東京オリンピック・パラリンピック CHIBA 推進会議」の専門部会に分科会を設置するなど、より緊密に情報共有や連携を図れるよう体制を強化していきます。
- ・市町村が実施する交流会やキャンプ等に対する補助金を創設し、パラリンピック競技の普及とキャンプ誘致に向けた機運の醸成を図っていきます。

【26 年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

- ・2020 年東京オリンピック・パラリンピックの大会の成功と開催効果の全県への波及などに向けた取組を進めるため東京オリンピック・パラリンピック推進課を創設します。（28 年度）

〔コスト（予算）〕

計 75,606 千円（28 年度）

- ・国際交流、国際協力の活発化を図るために必要な経費を措置しました。（28 年度）

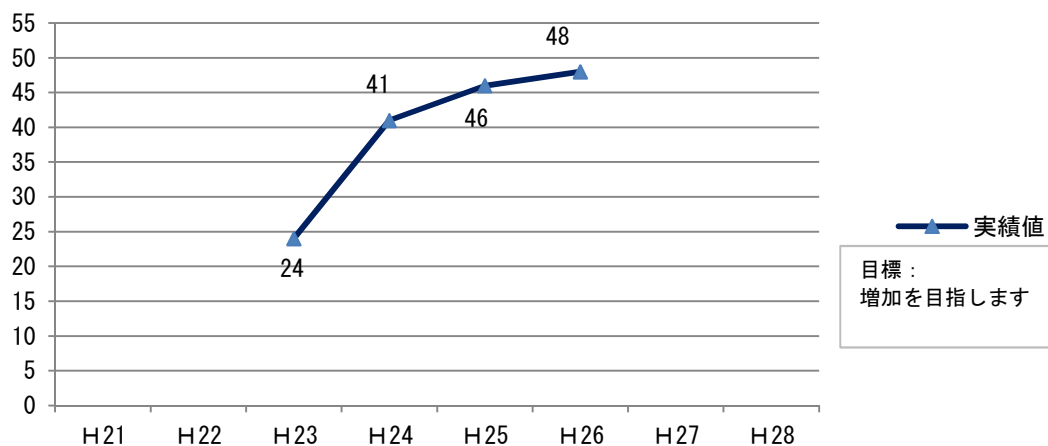
〔事務改善〕

- ・国際交流・協力活動のネットワーク化の推進について、CCB-IC、JICA 千葉支部、市町村などと協力して、国際交流・協力関係の民間団体への一層の周知に努めます。（28 年度）
- ・高校生海外留学助成事業については、さらに多くの生徒の留学を支援することができるよう、各高等学校等に対し、生徒・保護者への周知を徹底するよう働きかけます。（28 年度）
- ・チーバくん大使による情報発信については、海外への本県の魅力発信につなげるため、発信状況を毎月確認し、発信件数の少ない大使への支援に努めました。（27 年度）

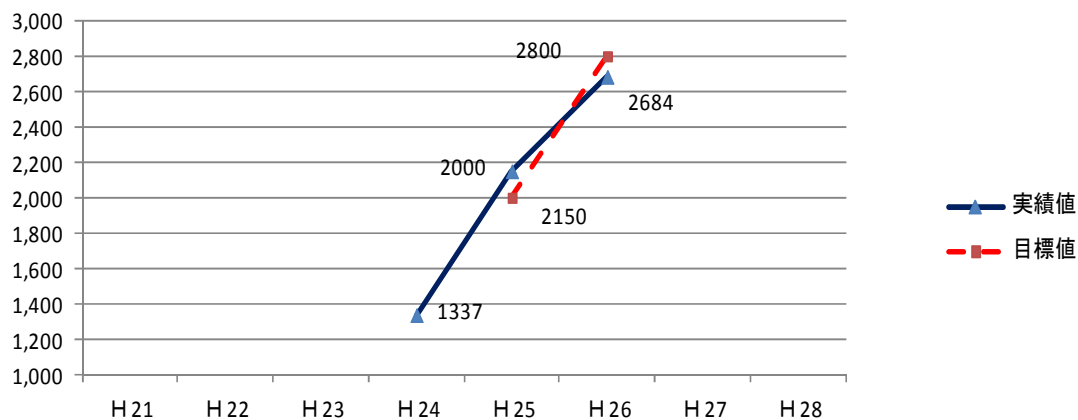
千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 国際交流、国際協力の活発化		コードNo.	Ⅲ-1-②-1																
担当課	総合企画部国際課、政策企画課、教育庁企画管理部教育政策課、教育振興部指導課		総合計画掲載ページ	185																
【指標による取組の判定】																				
指標の数：3 [うち目標を達成した指標の数：1 (33%)] 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず																				
【主な取組の指標】																				
指標名： 県の国際交流・協力活動のネットワーク会議に参加する団体数 (単位：団体)																				
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度												
実績値				45	52	32														
目標値					47	57														
指標名： 高校生（県立学校）の留学数（3か月以上） (単位：人)																				
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度												
実績値			24	41	46	48														
目標値					増加を目指します	増加を目指します														
指標名： チーバくん大使による情報発信件数（累計） (単位：件)																				
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度												
実績値				1,337	2,150	2,684														
目標値					2,000	2,800														
県の国際交流・協力活動のネットワーク会議に参加する団体数(団体)																				
<table border="1" style="margin: 10px auto;"> <caption>県の国際交流・協力活動のネットワーク会議に参加する団体数(団体)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>52</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>32</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table>									年度	実績値	目標値	H24	45	45	H25	52	47	H26	32	57
年度	実績値	目標値																		
H24	45	45																		
H25	52	47																		
H26	32	57																		

高校生（県立学校）の留学数（3か月以上）（人）



チーバくん大使による情報発信件数（累計）



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 外国人県民にも暮らしやすい県づくり		コードNo.	Ⅲ-1-②-2
担当課	総合企画部国際課、教育庁教育振興部指導課、警察本部組織犯罪対策本部組織犯罪対策課		総合計画掲載ページ	186
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	14,657千円 (9月補正後)	13,705千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	11,570千円	11,962千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標に届かず	

【主な実施事項と成果】
<p>1 外国人県民に対し、県ホームページ「ちば国際情報ひろば」を通じた医療、教育、住宅、雇用、災害など生活に密着した情報の提供や、母国語による総合的な相談窓口である「外国人テレホン相談」の年間を通じた開設により、外国人県民が安全で快適な生活を送ることができるよう対応しました。</p> <p>2 外国人県民への支援に関わる機関・団体が情報を共有し、相互の連携を強化するため「国際交流・協力等ネットワーク会議」（7月、48名参加）を開催しました。</p> <p>3 外国人県民への施策に関わる国、県等の関係機関・団体間の情報共有を図るため、「多文化共生社会づくり連絡協議会」（6月、12団体参加）を開催しました。協議会では、各団体の取組等について報告が行われ、外国人の雇用や留学生の現状など幅広いテーマについて意見交換を行いました。本県における多文化共生社会づくりを推進するうえで中心的な役割を担う団体間のネットワークの強化を図ることができました。</p> <p>4 災害時における外国人県民をサポートする人材を養成するため、公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー、市川市、市川市国際交流協会との共催のもと4年目となる「災害時外国人サポーター養成講座」（1月17日・24日開催、養成講座99人、在住外国人37人が参加）を開催しました。民間ボランティア（日本人）と在住外国人が共同で避難所巡回訓練を実施することで、両者間のネットワークを深め、より実践的な内容となりました。</p> <p>5 県立学校に在籍する日本語指導を必要とする外国人児童生徒に対して、児童生徒の母語を理解する教育相談員を派遣し、日本語指導、適応指導、保護者との連絡に必要な翻訳や通訳を行いました。</p> <p>6 外国人児童生徒等の教育に関する協議会を3回開催し、日本語指導担当者の実践報告や、小・中学校の日本語指導教室等の授業参加などを行いました。</p> <p>7 外国人に日本で円滑な日常生活を営むために必要な知識を身につけてもらうことを目的として、外国人集住地域の小学校や企業において、外国人が犯罪や事故に巻き込まれないための防犯指導や交通安全指導を実施しました。</p> <p>8 県警ホームページに外国人集住地域総合対策の活動を掲載しているほか、やさしい日本語版警察広報チラシや外国人向けの防犯情報や交通安全情報などを掲載し、広報活動を推進しました。</p>

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・外国人テレホン相談については、出入国や戸籍をはじめ相談内容が多岐にわたることから、外国人県民のニーズを把握し、適切にアドバイスできるよう事例の蓄積や的確な情報提供に努めていくことが必要です。
- ・災害時における外国人県民の支援については、県内各地域において、引き続き、ボランティアの養成を進めるとともに、各種協議の場を通じ連携体制づくりに向けて検討していく必要があります。
- ・外国人児童生徒等教育相談員については、多様化する外国人児童生徒のニーズに対応できるよう、また希望したことのない学校への周知が必要です。
- ・外国人が犯罪、事故、災害等に巻き込まれないように、引き続き、外国人向けの情報提供を行うとともに、必要な知識を身につけてもらうための取組を推進する必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・外国人県民向け情報提供については、災害関連情報を含め、最新の情報をタイムリーに提供できるように、ホームページで発信する情報を増やすなど、引き続き、外国語による情報発信機能の充実を図ります。
- ・外国人テレホン相談については、各種の相談に適切にアドバイスできるよう適切な人材の確保や資質の向上に努めます。また、より多くの外国人県民が利用できるよう、引き続き、関係者会議や県ホームページでの PR、情報提供などにより周知に努めます。
- ・市町村担当者会議、国関係機関等を含めた多文化共生社会づくり連絡協議会、国際交流等団体を対象とした国際交流・協力等ネットワーク会議の 3 つの会議を軸にして、引き続き、関係者間のネットワーク化に取り組みます。
- ・災害時外国人サポーター養成については、引き続き、市町村との連携により、ボランティア養成数及び養成地域の拡大に取り組みます。
- ・外国人児童生徒等教育相談員の適切な配置や、日本語指導担当者の授業での工夫などを数多く紹介できるよう検討していきます
- ・外国人が多数在籍する学校や企業等において、防犯指導や交通安全指導等を積極的に実施します。また、関係機関と情報交換を行うなどして、外国人が暮らしやすい社会づくりを推進します。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

20,517 千円（28 年度）

- ・外国人県民にも暮らしやすい県づくりの実現を図るために必要な経費を措置しました。（28 年度）
- ・今後も外国人集住地域総合対策を推進します。（28 年度）

※なお、県警察本部では、千葉県公安委員会の管理の下、情勢等の変化に応じた組織の見直しや取組を推進しております。また、独自の政策評価を行っておりますので、千葉県警察ホームページをご参照下さい。

〔事務改善〕

- ・国際交流関係者間のネットワーク化に取り組むため、市町村担当者会議、多文化共生社会づくり連

様式 2 - 2

絡協議会、国際交流・協力等ネットワーク会議の関係団体への一層の周知に努めます。(28年度)

- ・外国人テレホン相談については、より多くの外国人県民が利用できるよう、関係者会議や県ホームページ等でのPR、情報提供などにより、一層の周知に努めます。(28年度)
- ・外国人児童生徒等教育相談員派遣事業については、多様化する外国人児童生徒のニーズに対応できるよう、この事業をまだ利用したことがない学校を中心として事業の周知に努めます。(28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 外国人県民にも暮らしやすい県づくり	コードNo.	Ⅲ-1-②-2
担当課	総合企画部国際課、教育庁教育振興部指導課、警察本部組織犯罪対策本部組織犯罪対策課	総合計画掲載ページ	186

【指標による取組の判定】

指標の数：4 [うち目標を達成した指標の数：1 (25%)]
 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

【主な取組の指標】

指標名： 県の国際化施策に関する連携会議に参加する機関・団体数 (単位：団体)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				85	105	76		
目標値					95	108		

指標名： 外国人テレホン相談の相談件数 (単位：件)

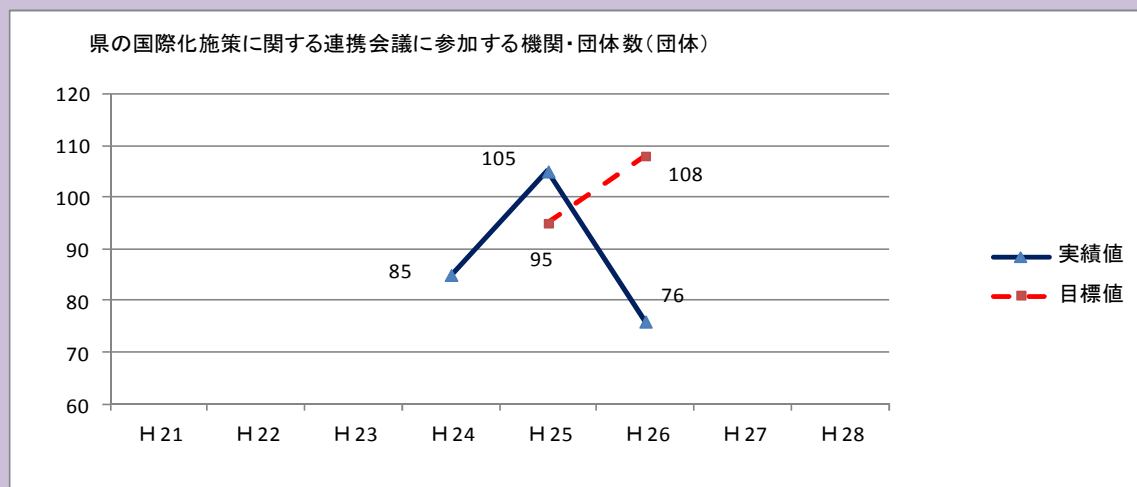
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	1,019	1,046	990	931	1,049	937		
目標値				1,050	1,050	1,050		

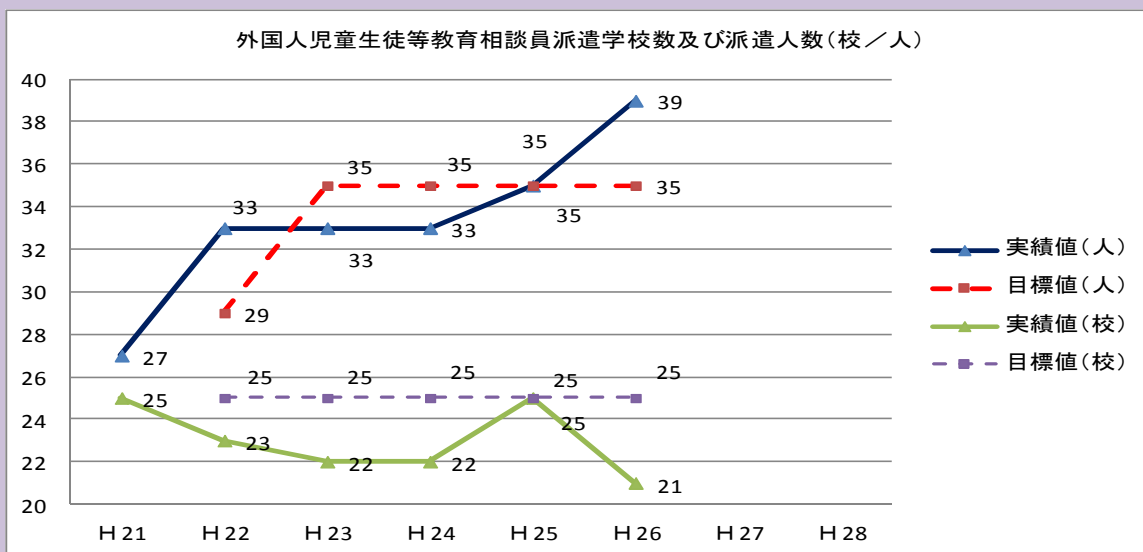
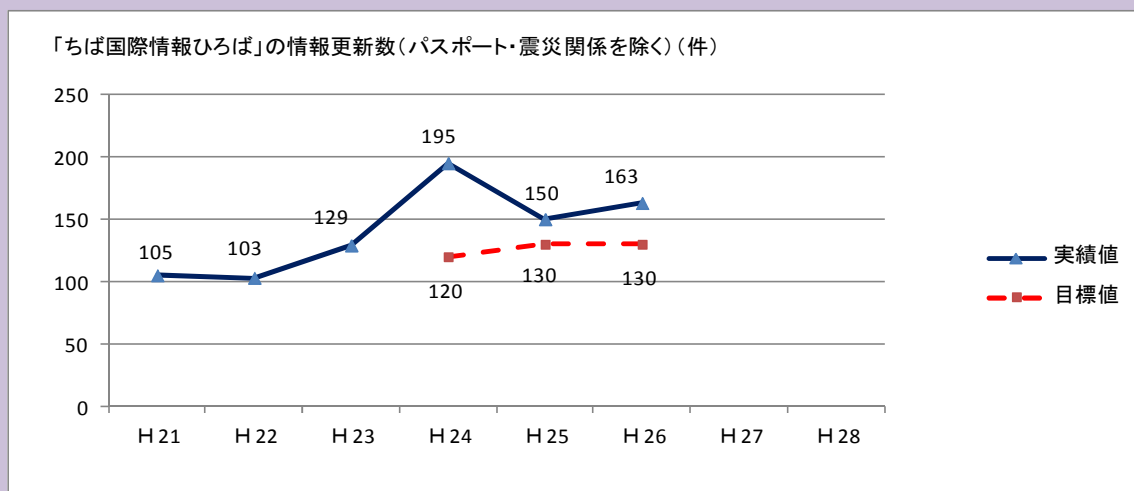
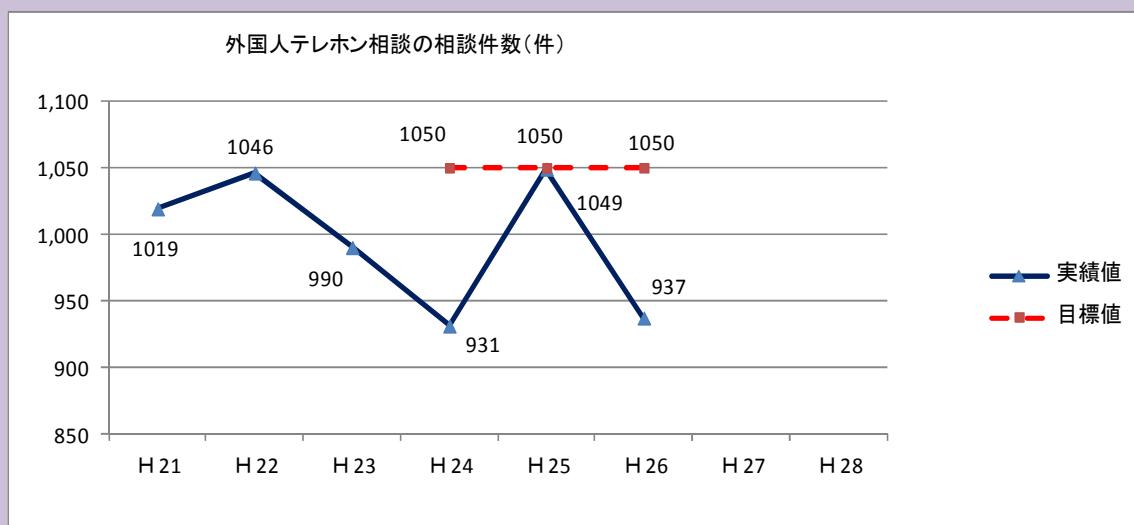
指標名： 「ちば国際情報ひろば」の情報更新数（パスポート・震災関係を除く） (単位：件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	105	103	129	195	150	163		
目標値				120	130	130		

指標名： 外国人児童生徒等教育相談員派遣学校数及び派遣人数 (単位：校/名)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	25校 27名	23校 33名	22校 33名	22校 33名	25校 35名	21校 39名		
目標値		25校 29名	25校 35名	25校 35名	25校 35名	25校 35名		





千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 県内企業の海外取引と県産農林水産物の輸出の促進		コードNo.	Ⅲ-1-②-3
担当課	商工労働部経済政策課、 農林水産部流通販売課、水産局水産課		総合計画掲載ページ	186
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	73,501千円 (9月補正後)	77,751千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	67,797千円	74,390千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を達成	

【主な実施事項と成果】
<p>1 県内の企業、団体、個人等からの貿易、海外投資、海外の経済事情等に関する質問や相談について、ジェトロ千葉が有するノウハウやネットワークを活用して、平成26年度は608件の相談に対応しました。</p> <p>2 海外展開を図る県内の中小企業・小規模事業者を対象として、貿易実務講座や海外ビジネスセミナーなどを13件開催することによって、最新の貿易実務や海外市場動向に関する情報提供を行いました。</p> <p>3 海外展開を図る県内の中小企業・小規模事業者に対し、①海外戦略の策定や翻訳などの貿易実務の支援を希望する企業に対する専門家派遣、②幕張メッセで開催される世界最大級の国際食品・飲料展「FOODEX JAPAN」への出展支援、③「ちば中小企業元気づくり基金事業」における市場開拓助成、等の事業を通じて積極的な支援を行いました。</p> <p>4 県産品輸出に関するアドバイス等を行う、輸出促進サポーターを5月に委嘱しました。商談会を開催するにあたり、事前説明会やサポーターによるセミナーを実施しました。</p> <p>5 輸出に取り組む企業・団体で構成される「千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会」の活動を支援し、タイ、香港、シンガポールでの見本市に出展しました。</p> <p>6 経済成長が著しく、高所得者が増えているタイ・バンコク及びマレーシア・クアラルンプールで、梨や水産物など県産農水産物のPR活動を行い、マレーシアへのサツマイモ等の新たな輸出につながりました。</p> <p>7 生産者団体等による主体的な輸出の取組に対し補助金を交付し、県産農産物の輸出を推進しました。</p> <p>8 日本食人気が高いタイにおいて、千葉県漁業協同組合連合会と連携して、水産物を中心としたプロモーションを実施し、イワシ丸干しや大粒の冷凍アサリ等、本県特産の水産加工品のPRと試験販売を行いました。</p>
【今後の課題と取組方針】
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <p>・海外における日本産食品の人気を受け、生産者団体等の輸出への関心が高まっています。諸外国に</p>

おける食品の輸入規則や市場動向、貿易実務ノウハウの情報提供など、新規に輸出に取り組む生産者団体等に対する支援が必要です。

- ・ 県産農林水産物の東南アジアでの知名度はまだ十分ではないため、販路拡大・定着に向け、継続した販売促進活動の取組が必要です。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・ ジェトロ千葉、千葉県産業振興センター、千葉県貿易協同組合等の県内の貿易関係機関と、定期的な意見交換・情報交換をすることによって、県内の企業が抱える課題や海外市場の情勢を的確に把握するとともに、多様化する企業の支援ニーズに応じて、貿易投資相談、マッチング支援、専門家派遣等、従前からの支援メニューに加えて、より一層の海外展開支援の深化を図ります。
- ・ 原発事故による輸出規制を行っている一部の国に対して、引き続き、的確な情報の把握と業者等への情報提供を行うほか、科学的根拠に基づかない輸入規制を解除するよう、国に要望します。
- ・ 県産農林水産物・食品の輸出事業の核となっている「千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会」の活動を継続的に支援すると同時に、生産者団体等による新たな輸出の取組を支援します。
- ・ トップセールスを行ったタイ、マレーシアでの県産農水産物の PR 活動を継続し、輸出の拡大を図ります。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 148,016 千円（28年度）

- ・ 県内企業の海外取引と県産農林水産物の海外販路の開拓を促進するため、必要な経費を措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

- ・ 知事のトップセールスのフォローアップのために、訪問した国で開催される見本市、展示会等に「千葉県ブース」を設け、県内中小企業に参加していただきます。（28年度）
- ・ マレーシアでサツマイモ輸出促進プロジェクトを実施し、焼き芋機を使った試食販売に加え、新たに、現地の人気動画クリエイターや、食に詳しい著名ブロガーによる情報発信などにも取り組みました。（27年度）

今後は、こうした取組の成果や課題を十分に分析した上で、マレーシアのクアラルンプール以外の都市や、新たな国・地域への販路開拓を図っていきます。（28年度）

- ・ 海外でのプロモーション活動やバイヤー招へいの回数を増やすとともに、輸出に積極的に取り組む生産者等への助成を大幅に拡充します。（28年度）
- ・ 輸出促進を検討する生産者と流通関係者、県等との情報の共有化を図るとともに、県産水産物の販売拡大に向けた PR 等を行い、引き続き県産水産物の魅力の発信に取り組みます。（28年度）

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 県内企業の海外取引と県産農林水産物の輸出の促進	コードNo.	Ⅲ-1-②-3
担当課	商工労働部経済政策課、 農林水産部流通販売課、水産局水産課	総合計画掲載ページ	186

【指標による取組の判定】

指標の数：4 [うち目標を達成した指標の数：3 (75%)]

目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

【主な取組の指標】

指標名：海外ビジネスセミナーの平均参加人数 (単位：人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				45	46	53		
目標値					50	50		

指標名：海外販路拡大に係る支援件数 (単位：件)

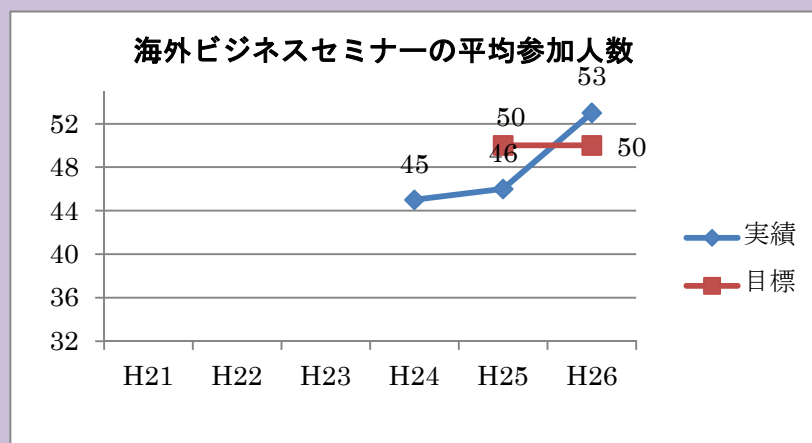
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	17	19	16	14	14	10		
目標値		25	10	10	11	11		

指標名：県産農林水産物の輸出を進める商談会・海外フェア (単位：回)

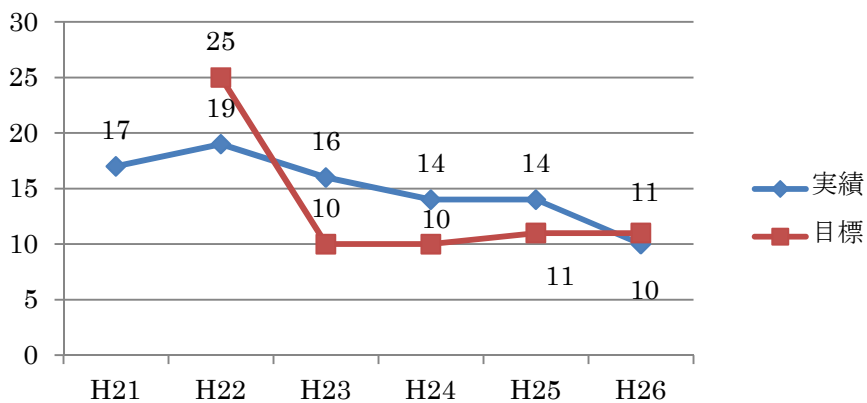
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	1	1	2	3	4	4		
目標値			2	2	4	4		

指標名：県産農林水産物の輸出に取り組む生産者団体数 (単位：社・団体)

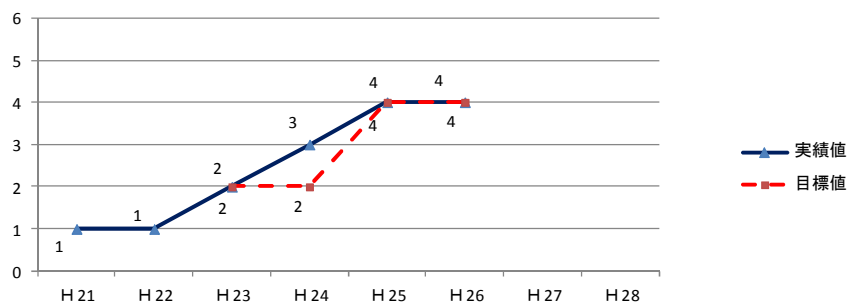
	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
実績値		48	33	30	33	46		
目標値					33	36		



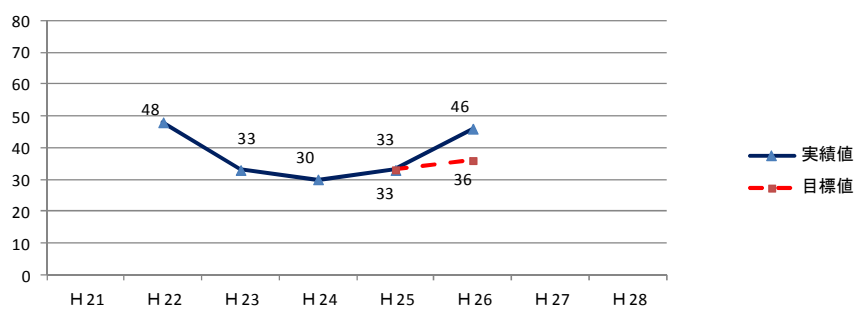
海外販路拡大に係る支援件数



県産農林水産物の輸出を進める商談会・海外フェア(回)



県産農林水産物の輸出に取り組む生産者団体数(社・団体)



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 海外プロモーション等による観光客の誘致促進		コードNo.	Ⅲ-1-②-4
担当課	商工労働部観光誘致促進課、観光企画課		総合計画掲載ページ	187
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	98,564千円 (9月補正後)	84,274千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	83,896千円	78,973千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成	

【主な実施事項と成果】

- 成田国際空港を有する優位性等を生かして外国人観光客を積極的に誘致するため、海外国際観光展でのPRや観光ミッション団の派遣、他県と連携した広域ルートの開発等を実施しました。
特にビザの緩和等で大幅に訪日旅行者が増加している東南アジアに対しては、タイ王国、マレーシア及びインドネシアを選定し、積極的な観光プロモーションに取組み、マレーシアからは4校154名の教育旅行を誘致し、県内の学校との交流も実施しました。
- 県独自で運営していたホームページを廃止し千葉県観光物産協会サイトと結合することにより、本県の観光情報を一元的に発信することとしました。また、外国語のページでは、英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語・タイ語に加え、新たにマレー語のページを準備するとともに、外国語対応のフェイスブックも備えるなど、東南アジアなど海外からの観光客への訴求力を強化しました。
- また、訪日外国人旅行者の要望の高い公衆無線LAN環境の整備のため、県内4市町村、民間3団体に対して補助金を交付し、宿泊施設や道の駅、館山城や洲崎灯台、養老溪谷などの観光地で公衆無線LAN整備が促進されました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- 成田空港を有しながらも、空港から県内各観光地への交通アクセス等の問題から、現在のところ、外国人旅行者を対象とした、県内を観光ルートとするツアーが少ないという状況にあります。
- 平成26年9月17日にリニューアルした観光ウェブサイトについては、アクセス数が目標を下回ってしまったため、原因の分析を進め、一層の周知に向けた取組が必要となります。

- 東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、国内外から多くの人が本県を訪れると予測されることから、本県を訪れた人が安心して快適に過ごすことができる環境を整備する必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- 外国人旅行者を対象にツアー参加者を募集している事業者向けに、県内のモニターツアーを実施します。
- 観光ウェブサイトのアクセス数を高めるため、リニューアル後に新設したFacebookページも活用し、本県の魅力的な情報を幅広く発信するとともに、プロモーションの度にウェブサイトをPRし、周知拡大を図っていきます。

- ・ 宿泊施設や観光施設における多言語での案内表記や無料公衆無線LANの整備などを推進します。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

- ・ 訪日教育旅行の受入体制強化のため平成 27 年 10 月から嘱託を 2 名追加配置し、平成 28 年度においても継続して配置していきます。(27 年度・28 年度)

〔コスト（予算）〕

計 297,706 千円（28 年度）

訪日外国人観光客誘致促進のために必要な経費を措置しました。(28 年度)

〔事務改善〕

- ・ 台湾からの更なる誘致のため、新たに、台湾にて開催された旅行博へ出展及び商談会へ参加しました。(27 年度)
- ・ 海外での PR 効果アップのため、英語、中国語（繁体字）、タイ語、マレー語による観光ポスターを作成しました。(27 年度)
- ・ 観光ウェブサイトのアクセス数を高めるため、海外旅行博にて、観光ウェブサイトの PR を行いました。(27 年度)
- ・ 外国人観光客のプロモーションについては、従来の対象国に香港を追加し、事業費を増額して取組みを強化していきます。(28 年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 海外プロモーション等による観光客の誘致促進			コードNo.	Ⅲ-1-②-4																							
担当課	商工労働部観光誘致促進課、観光企画課			総合計画掲載ページ	187																							
【指標による取組の判定】																												
指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：1 (50%)] 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず																												
【主な取組の指標】																												
指標名：（補）外国人宿泊客数 (単位：万人)																												
	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年度	28年度																				
実績値	162	225	143	179	204	267																						
目標値					180	189																						
指標名：英語版県観光ホーム等ページアクセス件数 (単位：件)																												
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度																				
実績値		175,673	202,085	176,468	321,558	238,386																						
目標値					185,300	262,500																						
<p>指標名：(補)外国人宿泊客数(万人)</p> <table border="1"> <caption>外国人宿泊客数(万人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>162</td><td></td></tr> <tr><td>H22</td><td>225</td><td></td></tr> <tr><td>H23</td><td>143</td><td></td></tr> <tr><td>H24</td><td>179</td><td></td></tr> <tr><td>H25</td><td>199</td><td>180</td></tr> <tr><td>H26</td><td>267</td><td>189</td></tr> </tbody> </table>								年度	実績値	目標値	H21	162		H22	225		H23	143		H24	179		H25	199	180	H26	267	189
年度	実績値	目標値																										
H21	162																											
H22	225																											
H23	143																											
H24	179																											
H25	199	180																										
H26	267	189																										
<p>指標名：英語版県観光ホームページアクセス件数(件)</p> <table border="1"> <caption>英語版県観光ホームページアクセス件数(件)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H21</td><td>175,673</td><td></td></tr> <tr><td>H22</td><td>202,085</td><td></td></tr> <tr><td>H23</td><td>176,468</td><td></td></tr> <tr><td>H24</td><td>321,558</td><td></td></tr> <tr><td>H25</td><td>238,386</td><td>185,300</td></tr> <tr><td>H26</td><td>262,500</td><td></td></tr> </tbody> </table>								年度	実績値	目標値	H21	175,673		H22	202,085		H23	176,468		H24	321,558		H25	238,386	185,300	H26	262,500	
年度	実績値	目標値																										
H21	175,673																											
H22	202,085																											
H23	176,468																											
H24	321,558																											
H25	238,386	185,300																										
H26	262,500																											

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	5 MICE の誘致促進と幕張メッセの活用		コードNo.	Ⅲ-1-②-5
担当課	総合企画部政策企画課、 商工労働部経済政策課		総合計画掲載ページ	187
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	1,869,101千円 (9月補正後)	2,062,440千円 (当初予算)	千円 (当初予算)	千円 ()
決算額	1,527,365千円	1,789,644千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成	

【主な実施事項と成果】	
<p>1 MICE については、公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー（CCB-IC）を中心として、市町村や関係機関との連携により、誘致に取り組みました。平成26年度は、CCB-ICにより、国際会議（JNTO基準）の誘致に37件成功しました。</p> <p>※JNTO基準：参加者50人以上、参加国3カ国以上、会期1日以上等</p> <p>2 アジア有数のコンベンション施設である幕張メッセにおいては、国際的な産業展示会や、音楽・文化系などのイベントの新規・継続誘致に取り組みました。平成26年度は、従来から開催している「CEATEC」や「FOODEX」に加え、「地方銀行フードセレクション」などの新規イベントや、夏季長期イベントである「宇宙博2014」等を開催しました。</p> <p>3 県と千葉市からなる「元気な幕張新都心をつくる縣市連絡会議幹事会」を開催し、幕張新都心の更なる活性化について協議しました。</p> <p>4 各市町村がIR導入について検討するための基礎資料として活用できるよう、世界の先進事例や導入に伴う効果や影響、自治体が取り組むべき事項などについて調査を実施しました。</p>	
【今後の課題と取組方針】	
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、今後国内外から多くの方が首都圏を訪れることが予想されます。この機会を確実に捉え、首都圏を実際に訪れる方々や日本に興味を持っている方々に、千葉の魅力を戦略的にPRし、本県へのMICE誘致に繋げていく必要があります。 <p>〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MICEの誘致については、CCB-ICと（株）幕張メッセが共同で誘致活動を行う等、関係機関との連携の強化を図り、より一層の誘致競争力の強化に努めてまいります。 ・幕張メッセについては、施設の維持に加えて、競争力を強化するための改修工事を行うとともに、指定管理者である（株）幕張メッセとも連携し、広報の充実や利用者サービスの向上などによって、より積極的なイベント等の誘致を図ってまいります。 	
【26年度の評価結果の反映】	
<p>〔組織・人員〕</p> <p>〔コスト（予算）〕</p> <p>合計1,984,362千円（28年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MICE誘致を促進するため、必要な経費を措置しました。（28年度） ・幕張メッセを運営するための経費に加えて、老朽化対策と施設の機能強化のための大規模な改修に着手することとし、必要な経費を措置しました。（28年度） 	

〔事務改善〕

- ・幕張新都心については、「元気な幕張新都心をつくる縣市連絡会議」などを活用し、県と千葉市の適切な役割分担のもと、更なる活性化に取り組んでまいります。(28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	5 MICE の誘致促進と幕張メッセの活用	コードNo.	Ⅲ-1-②-5
担当課	総合企画部政策企画課、 商工労働部経済政策課	総合計画掲載ページ	187

【指標による取組の判定】

指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：1 (50%)]

目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

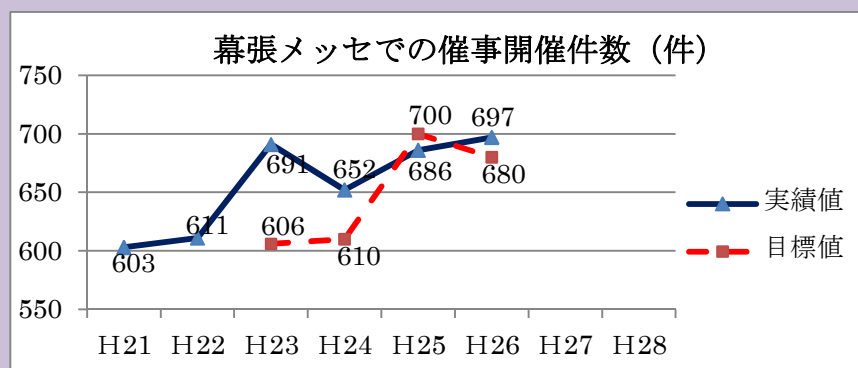
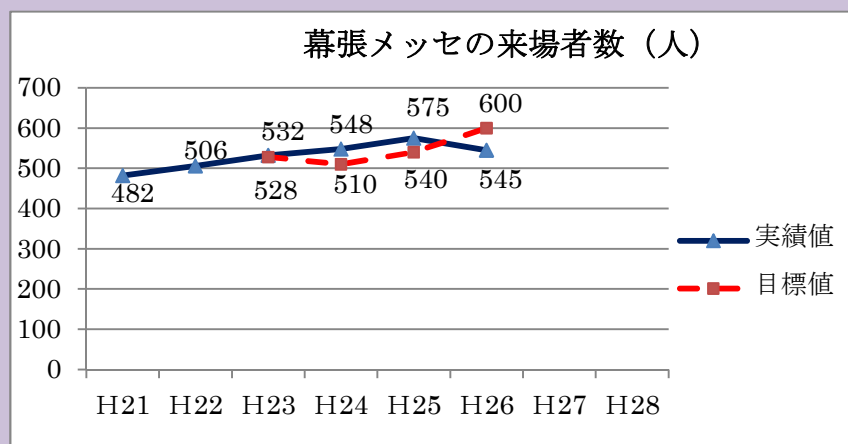
【主な取組の指標】

指標名：（補）幕張メッセ来場者数 (単位：万人)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	482	506	532	548	575	545		
目標値			528	510	540	600		

指標名：幕張メッセでの催事開催件数 (単位：件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	603	611	691	652	686	697		
目標値			606	610	700	680		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	③成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化		コードNo.	Ⅲ-1-③
施策主務課	総合企画部空港地域振興課		総合計画掲載ページ	188
施策の目標	成田国際空港（以下「成田空港という。」）の年間発着回数30万回の早期実現を目指します。 成田空港と県内外への交通アクセスを更に充実させます。			
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	19,659,913千円 (9月補正後)	19,260,824千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	19,139,637千円	11,865,640千円	千円	千円
【施策の実施状況の判定】				
進展が図られています・概ね進展が図られています・一部の進展にとどまっています				
目標を達成した取組数		目標を概ね達成した取組数	目標に届かなかった取組数	
1 (25%)		2 (50%)	1 (25%)	
【施策内の主な取組の実施状況】				
1	成田空港を活用した県経済の活性化			目標を概ね達成
2	成田空港周辺地域の環境対策・地域共生策の推進			目標を達成
3	成田空港周辺地域の振興			目標に届かず
4	成田空港への交通アクセスの強化			目標を概ね達成

【政策の実施状況・上位政策への貢献】	
<ul style="list-style-type: none"> ・計画の指標の「成田空港の航空旅客数」は、羽田の国際線増枠、円安による海外旅行控えなどの影響と考えられる一時的な減少はあったものの、訪日外国人数が過去最高を更新しており、今後も増加が見込まれます。 ・成田空港を活用した千葉県経済の活性化の取組を、平成25年7月に、官民により設立された「成田空港活用協議会」と連携・協力して、各種事業を展開することができました。 ・住宅防音工事等の環境対策や地域共生策を併せて実施しました。 ・平成26年3月28日に国会において成田財特法¹⁾の延長法案が成立し、同年3月31日に施行され、5年間（平成31年3月31日まで）の期限延長が認められたことを受け、「成田国際空港周辺地域整備計画」の一部を変更しました。 ・日本の空の表玄関である成田空港を擁する優位性を生かし、外国人観光客の積極的誘致を図るため、知事のトップセールスによる海外での観光PR及び国際観光展覧、商談会の開催等を実施するとともに、地域経済の活性化に貢献する経済波及効果の大きい国際会議などの積極的な誘致を図りました。 ・主な取組の行政活動目標等の達成状況から、施策全体で概ね進展が図られており、成田空港を活用した県経済の活性化向け貢献したと考えられます。 	

【今後の課題と取組方針】

〔課題（指標の状況、政策への貢献度を向上させるために解決すべき課題）〕

- ・東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、今後、成田空港を利用する人や物が増大することが予想されるため、この人・物の流れを県内に取り込むことによる県経済の活性化を目指す必要があります。
- ・成田空港活用協議会では、成田空港のポテンシャルを最大限に活用し、県経済の活性化につなげるため、各会員のさらなる参加を得ながら相乗効果を上げる必要があります。
- ・騒音障害等マイナスの影響を解消するため、住宅防音工事の一層の進捗を図る必要があります。
- ・地域共生策の一つとして、成田財特法の延長を受けて一部変更した「成田国際空港周辺地域整備計画」に基づき空港周辺の整備を行う必要があります。
- ・東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、圏央道の延伸や成田空港の機能拡充やLCCの新規就航・増便などの様々な機会を効果的に活用し、海外に向けた積極的かつ状況に応じた効果的なPR、誘客に努めるとともに、東京湾アクアラインや圏央道で繋がる関東近県をはじめとして、都道府県域を超えた広域的な連携を促進していく必要があります。
- ・成田国際物流複合基地（南側）二期事業の未買収地の取得が難航しており、造成整備の進捗に影響があります。
- ・平成 22 年に成田新高速鉄道（成田スカイアクセス）が開業したことで空港アクセスは飛躍的に向上しましたが、成田・羽田両空港の一体的活用を推進し、首都圏の国際競争力を維持・強化していく観点から、都心と成田・羽田両空港間の更なるアクセス改善が必要です。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・一部変更した「成田国際空港周辺地域整備計画」に基づき、関係機関に協力して、空港周辺の主要地方道・成田松尾線や成田小見川鹿島港線のなどの整備を進めます。
- ・市町等の実施する住宅等防音事業に助成していきます。
- ・東京オリンピック・パラリンピック開催を見据え、成田空港活用協議会とも連携しつつ、県、市町村、民間事業者等が一体となって、海外はもとより、LCCの増便により結ばれる国内地方都市に対しても、効果的な情報発信に努めるとともに、公衆無線LANの整備や観光案内板の多言語化など受入体制の整備を進めていきます。また、国の事業も活用し、都道府県域を超えた広域観光ルートの開発や新商品のセールス、市場の拡大を推進していきます。
- ・成田国際物流複合基地（南側二期）事業の未買収地に影響のない範囲で造成工事を進めながら、未買収地の取得に努めてまいります。
- ・都心と成田・羽田両空港間の更なるアクセス改善に向け、鉄道アクセス改善（都心直結線²⁾）及びリニアモーターカーについて検討する必要があることから、国による都心直結線の検討に協力するとともに、鉄道アクセス改善及びリニアモーターカー構想について、国への要望活動を行います。
- ・引き続き、地元市町村及び県内経済団体などの関係団体と連携を図りながら、高規格幹線道路の整備促進を国に強く働きかけます。
- ・更なる道路整備の推進を図るため、早期供用の見込める箇所から重点的に工事を進めます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 22,495,427 千円（28 年度）

- ・成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化を一層推進していくために必要な経費を措置しました。（28 年度）

〔事務改善〕

- ・「成田空港活用協議会」と連携し、圏央道延伸を機に北関東方面からのアクセス向上など成田空港の利便性向上を発信するプロモーション活動やビジネスセミナー、増加するLCCを活用した国内線就航地との地域間交流などの取組を実施しました。(27年度)
- ・引き続き「成田空港活用協議会」と連携し、圏央道の茨城県区間全通を見据えたプロモーションやこれまで培ってきた国内線就航先とのつながりを生かした事業展開を図るなど、「オール千葉」の体制で成田空港を活用した千葉県経済の活性化の取組を推進して行きます。(28年度)
- ・引き続き、国・県・空港周辺9市町及びNAAの四者で協力して、住宅防音工事などの環境対策・環境共生策への推進に取り組みます。(28年度)
- ・引き続き、関係機関と協力して「成田空港周辺整備計画」を推進して行きます。(28年度)
- ・引き続き、空港アクセスの更なる改善のために、国に対し要望活動を行います。(28年度)

【注】

- (1) **成田財特法**：「成田国際空港周辺整備のための国の財政上の特別措置に関する法律」の略称です。
- (2) **都心直結線**：東京都心と成田・羽田両空港間のアクセス時間の短縮を図るため、浅草線の押上駅付近と泉岳寺駅付近を直接結び、途中で東京駅に接着する地下鉄(短絡線)を新たに整備する構想です。

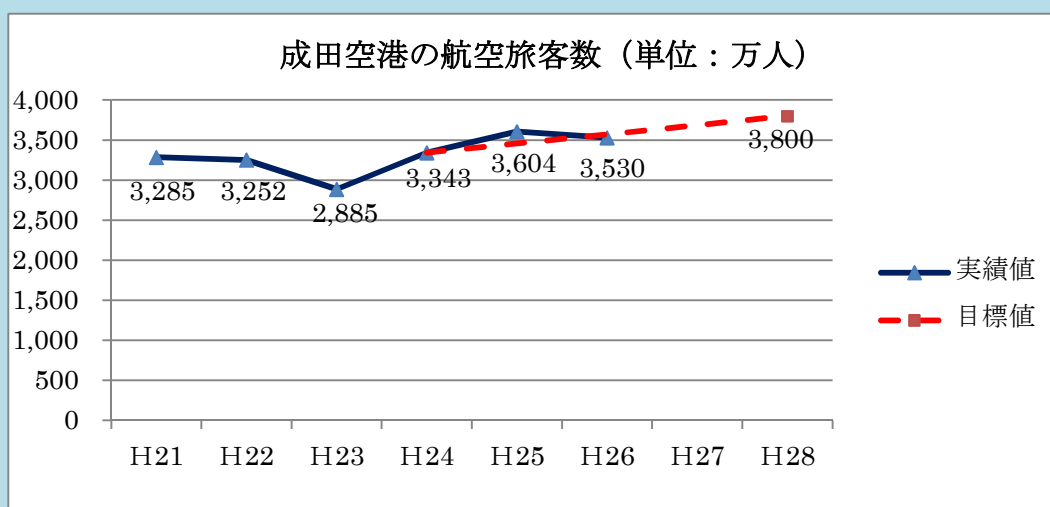
千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	③成田空港の機能拡充と空港を活用した県経済の活性化	コードNo.	Ⅲ-1-③
施策主務課	総合企画部空港地域振興課	総合計画掲載ページ	188

【計画に掲げた政策の指標（この施策に関連する指標の抜粋）】

指標名：成田空港の航空旅客数							(単位：万人)	目 標
21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	(28年度)
3,285	3,252	2,885	3,343	3,604	3,530			3,800

*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 成田空港を活用した県経済の活性化		コードNo.	Ⅲ－1－③－1
担当課	総合企画部空港地域振興課、 商工労働部企業立地課、観光誘致促進課		総合計画掲載ページ	189
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	159,576千円 (9月補正後)	136,907千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	135,964千円	123,366千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成	

【主な実施事項と成果】	
1	年間発着回数 30 万回の早期実現のため、地域振興連絡協議会を通じ、成田空港への新規就航及び新規路線開設の第 1 便の歓迎イベント（6 回）を成田空港で実施するとともに、周辺自治体首長による国内線就航先自治体への表敬訪問及び国内線就航先都市における PR 事業を行い、成田空港の利用促進を図りました。
2	平成 25 年 7 月に、官民により設立された「成田空港活用協議会」と連携・協力して、国内外での多様なメディアを活用した情報発信や、ビジネス支援のためのセミナー（参加者数 100 名）などに取り組みました。 また、成田空港の利便性向上のため、県内の関係団体とともに首都圏中央連絡自動車道及び北千葉道路建設促進に関する要望活動を国等関係先に対して行いました。
3	県内への企業誘致を一層推進するため、国内外企業へのアンケートや電話相談等を踏まえ、1322 件の企業訪問活動や知事によるトップセールス、海外企業への直接営業活動などを実施し、本県の魅力を積極的にアピールし、成田空港を有するなど本県の持つ優れた立地優位性の発信に努めることで、前年度を 24 件上回る 78 件の企業立地につながりました。
4	成田空港を有する優位性等を生かして、外国人観光客を積極的に誘致するため、海外国際観光展での PR や観光ミッション団の派遣、他県と連携した広域ルートの開発等を実施しました。特にビザの緩和等で大幅に訪日旅行者が増加している東南アジアに対しては、タイ王国、マレーシア及びインドネシアを選定し、積極的な観光プロモーションに取り組み、マレーシアからは 4 校 154 名の教育旅行を誘致し、県内の学校との交流も実施しました。
5	県独自で運営していたホームページを廃止し千葉県観光物産協会サイトと結合することにより、本県の観光情報を一元的に発信することとしました。また、外国語のページでは、英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語・タイ語に加え、新たにマレー語のページを準備するとともに、外国語対応のフェイスブックも備えるなど、東南アジアなど海外からの観光客への訴求力を強化しました。
【今後の課題と取組方針】	
〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕	
・指標「成田空港の年間発着回数」については、26 年度は 22.8 万回であり、25 年度の 22.6 万回を上回ることができました。引き続き、地元の理解と協力を得ながら年間発着回数 30 万回に向け、成田空港の利用促進に協力する必要があります。	

- ・成田空港のポテンシャルの効果を県全体に波及させるためには、成田空港活用協議会のコーディネート機能をより発揮し、民・官が連携し、取組を活発化することが必要です。
- ・成田空港を有しながらも、空港から県内各観光地への交通アクセス等の問題から、現在のところ、外国人旅行者を対象とした、県内を観光ルートとするツアーが少ないという状況にあります。
- ・平成 26 年 9 月 17 日にリニューアルした観光ウェブサイトについては、アクセス数が目標を下回ってしまったため、原因の分析を進め、一層の周知に向けた取組が必要となります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・引き続き、地域振興連絡協議会を通じて、PR 事業や国内線就航先との交流事業を実施し、成田空港の利用促進に協力していきます。
- ・庁内組織である「30 万回活用プロジェクトチーム」が中心となり、「成田空港活用協議会」と連携を密にして、空港を活用した観光や産業の振興に取り組みます。
- ・外国人旅行者を対象にツアー参加者を募集している事業者向けに、県内のモニターツアーを実施していきます。
- ・観光ウェブサイトのアクセス数を高めるため、リニューアル後に新設した Facebook ページも活用し、本県の魅力的な情報を幅広く発信するとともに、プロモーションの度にウェブサイトを PR し、周知拡大を図っていきます。

【26 年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

訪日教育旅行の受入体制強化のため平成 27 年 1 月から嘱託を 2 名追加配置し、平成 28 年度においても継続して配置していきます。(27 年度・28 年度)

〔コスト（予算）〕

計 190,299 千円

- ・ 127,066 千円

訪日外国人観光客誘致促進のために必要な経費を措置しました。(28 年度)

〔事務改善〕

- ・台湾からの更なる誘致のため、新たに、台湾にて開催された旅行博へ出展及び商談会へ参加しました。(27 年度)
- ・海外での PR 効果アップのため、英語、中国語（繁体字）、タイ語、マレー語による観光ポスターを作成しました。(27 年度)
- ・観光ウェブサイトのアクセス数を高めるため、海外旅行博にて、観光ウェブサイトの PR を行いました。(27 年度)
- ・引き続き、地域振興連絡協議会を通じて、歓迎イベント・国内線就航先での PR 活動等を実施し、成田空港の利用促進に協力していきます。(28 年度)
- ・成田空港活用協議会と 30 万回活用プロジェクトチーム構成各課が、引き続き連携を密にして、国内線 LCC を活用した誘客促進や、ビジネス支援セミナーなどの事業展開を図ります。(28 年度)
- ・首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の神崎・大栄間の開通、成田空港の第 3 旅客ターミナルビルの供用開始などポテンシャルの向上など本県の魅力や立地優位性を「企業誘致セミナー」でのトップセールスや積極的な企業訪問などより広く PR し、企業誘致を推進していきます。(28 年度)

【注】

- (1) **M I C E** : 企業等の会議 (Meeting)、企業等が行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際会議 (Convention)、イベント・展示会・見本市 (Event/Exhibition) の頭文字で、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 成田空港を活用した県経済の活性化	コードNo.	Ⅲ-1-③-1
担当課	総合企画部空港地域振興課、 商工労働部企業立地課、観光誘致促進課	総合計画掲載ページ	189

【指標による取組の判定】

指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：1 (50%)]
 目標を達成 ・ **目標を概ね達成** ・ 目標に届かず

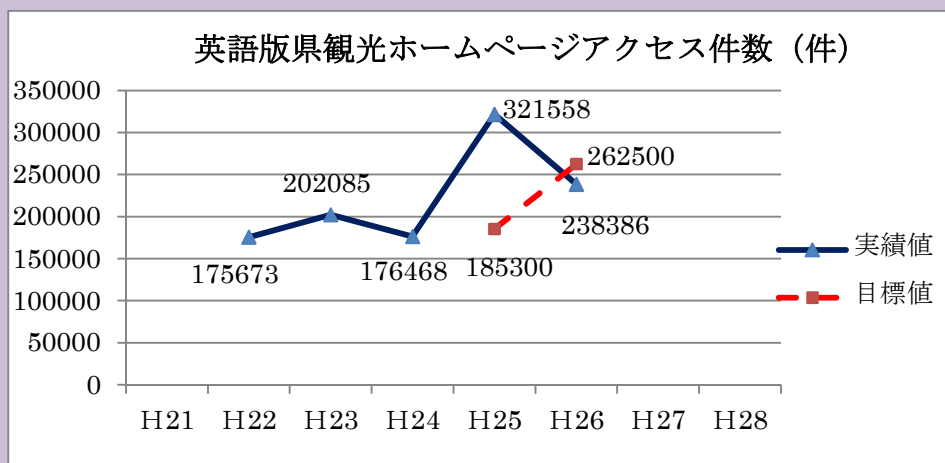
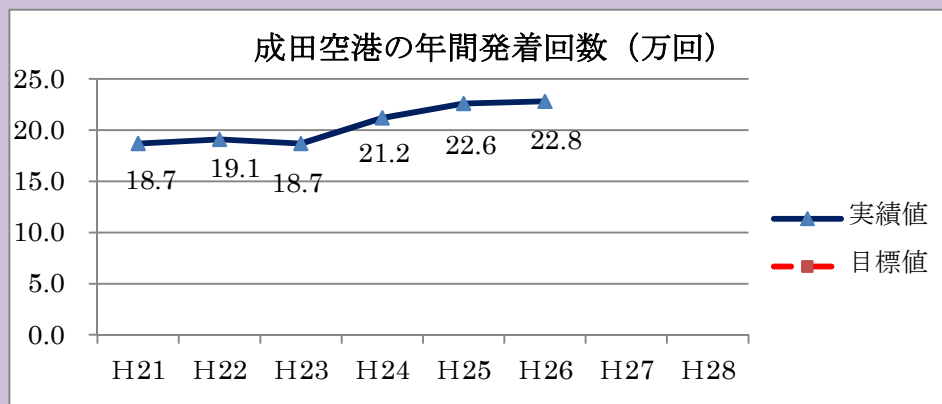
【主な取組の指標】

指標名：成田空港の年間発着回数 (単位：万回)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	18.7	19.1	18.7	21.2	22.6	22.8		
目標値					増加を目指します	増加を目指します		

指標名：英語版県観光ホームページアクセス件数 (単位：人)

	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
実績値	—	175,673	202,085	176,468	321,558	238,386		
目標値					185,300	262,500		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 成田空港周辺地域の環境対策・地域共生策の推進		コードNo.	Ⅲ-1-③-2
担当課	総合企画部空港地域振興課		総合計画掲載ページ	190
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	162,997千円 (9月補正後)	101,821千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	146,261千円	83,861千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を達成	

【主な実施事項と成果】
<p>1 航空機騒音から住民の生活環境を保全するため、成田国際空港株式会社（NAA）及び市町等と協力し、市町等が行う共同利用施設建設事業、住宅防音工事業、空調機器更新事業に係る費用を補助し、平成26年度末までに市町の行う住宅防音工事対象1,376戸のうち1,178戸（85.6%）について、工事が完了しました。</p> <p>2 住宅防音工事の拡充については、新たに平成25年7月から公益財団法人成田空港周辺地域共生財団（共生財団）が行うことになり、対象5,544戸のうち、260戸について工事が完了しました。</p>
【今後の課題と取組方針】
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 国による有識者会議「首都圏空港機能強化技術検討小委員会」の中間とりまとめを受け、国が設置した「首都圏空港機能強化の具体化に向けた協議会」において、成田空港の機能強化が検討されていますが、検討に際しては、丁寧な説明を行い、地域への配慮を行うとともに地域の理解と協力が必要になります。 共生財団が行う住宅防音工事等の事業を継続していくため、事業の原資となる運用財産の積み増しを着実に実施していく必要があります。 <p>〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 成田空港と地域の共生・共栄を実現していくためには、これまでの約束事項の確実な実施が必要であることから、今後も、周辺市町及びNAA等関係機関と連携し、周辺市町等の行う騒音対策事業に協力していきます。 共生財団の行う事業に関し、事業実施年度の2年後に事業年度に要した費用を各団体の出えん比率に応じて出えんすることで、共生財団の原資が減少することのないようにしていきます。
【26年度の評価結果の反映】
<p>〔組織・人員〕</p> <p>〔コスト（予算）〕</p> <p>計179,253千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅防音工事等に必要経費を措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

- ・引き続き、空港周辺市町、共生財団及びNAAと協力して、騒音対策に要する費用に対して補助を実施して行きます。(28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 成田空港周辺地域の環境対策・地域共生策の推進				コードNo.	Ⅲ-1-③-2		
担当課	総合企画部空港地域振興課				総合計画掲載ページ	190		
【指標による取組の判定】								
指標の数：1 [うち目標を達成した指標の数：1 (100%)]								
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">目標を達成</div> ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず								
【主な取組の指標】								
指標名：空港周辺の住宅防音工事の進捗率（累計） （単位：％）								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	82.0	83.1	84.0	84.3	84.8	85.6		
目標値		増加を目指します	増加を目指します	増加を目指します	増加を目指します	増加を目指します		

空港周辺の住宅防音工事の進捗率（累計）（％）

年度	実績値 (%)	目標
H21	82.0	
H22	83.1	増加を目指します
H23	84.0	増加を目指します
H24	84.3	増加を目指します
H25	84.8	増加を目指します
H26	85.6	増加を目指します

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 成田空港周辺地域の振興			コードNo.	Ⅲ－1－③－3
担当課	総合企画部空港地域振興課、 企業庁地域整備部土地・施設管理課			総合計画掲載ページ	190
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	92,706千円 (9月補正後)	62,096千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	31,074千円	29,798千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標に届かず		

【主な実施事項と成果】

- 成田空港の持つ国際空港としての機能を活用した地域振興などを図るため、空港周辺の主要地方道・成田松尾線や成田小見川鹿島港線の整備などの「成田国際空港周辺地域整備計画」事業の推進を図りました。
- 平成26年3月28日に国会において成田財特法¹⁾の延長法案が成立し、同年3月31日に施行され、5年間（平成31年3月31日まで）の期限延長が認められたことを受け、「成田国際空港周辺地域整備計画」の関係機関と協議のうえ、一部を変更しました。なお、この変更により事業量が増加したため、進捗率が減少しました。
- 年間発着回数30万回の早期実現のため、地域振興連絡協議会を通じて、成田空港への国内線LCC新規就航先都市への周辺市町首長等の訪問事業を実施し、周辺市町等のPRを行うことで地域振興を図りました。
- 成田国際物流複合基地（南側二期）区域において進入路工事等の整備事業を実施しました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- 一部変更した「成田国際空港周辺地域整備計画」に基づき、空港周辺の整備を図る必要があります。
- 就航先都市への訪問事業は、周辺市町のPRにおいて有効ですが、今後は、一層の地域振興を図るため、就航先都市との相互交流を進める必要があります。
- 成田国際物流複合基地（南側二期）事業全体としての進捗が微増に留まっているのは、未買収地の取得が難航しているためであり、引き続き、用地取得を進めていく必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- 一部変更した「成田国際空港周辺地域整備計画」に基づき、引き続き、関係機関に協力して空港周辺の主要地方道・成田松尾線や成田小見川鹿島港線のなどの整備を進めます。
- 引き続き、就航先都市への訪問事業を実施すると共に、就航先との相互交流事業として、就航先都市を招聘し、県内又は近県において共同して成田空港利用促進事業を進めてまいります。
- 成田国際物流複合基地（南側二期）事業の未買収地の影響のない範囲で、造成工事を進めていくとともに、未買収地の取得に努めていきます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 74,975 千円

- ・成田国際物流複合基地（南側）二期区域の事業推進のために必要な経費を措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

- ・引き続き、関係機関と協力して「成田空港周辺整備計画」を推進して行きます。（28年度）
- ・引き続き、空港周辺地域の地域振興のため、地域振興連絡協議会を通じ国内線就航都市において成田空港周辺市町のPR事業を行います。（28年度）
- ・引き続き、成田国際物流複合基地（南側）二期事業の進捗を図るため、盛土工事等を実施します。（28年度）

【注】

- （1）成田財特法：「成田国際空港周辺整備のための国の財政上の特別措置に関する法律」の略称です。

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 成田空港周辺地域の振興	コードNo.	Ⅲ-1-③-3
担当課	総合企画部空港地域振興課、 企業庁地域整備部土地・施設管理課	総合計画掲載ページ	190

【指標による取組の判定】

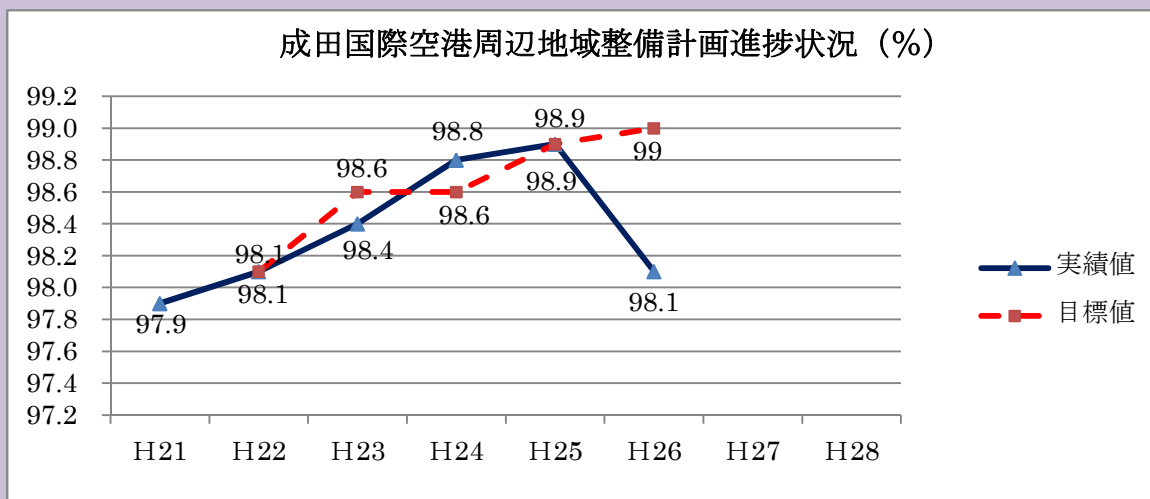
指標の数：1 [うち目標を達成した指標の数：0 (0%)]

目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

【主な取組の指標】

指標名：成田国際空港周辺地域整備計画進捗状況 (単位：%)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	97.9	98.1	98.4	98.8	98.9	98.1		
目標値		98.1	98.6	98.6	98.9	99.0		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 成田空港への交通アクセスの強化		コードNo.	Ⅲ-1-③-4
担当課	総合企画部交通計画課、 県土整備部道路計画課、道路整備課		総合計画掲載ページ	190
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	19,244,634千円 (9月補正後)	18,960,000千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	18,826,338千円	11,628,615千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成	

【主な実施事項と成果】

- 1 東京都心と成田・羽田両空港を鉄道で直結する「都心直結線¹⁾」について、国の検討に協力するとともに、成田空港と東京駅のアクセス時間短縮を最優先に検討するよう、国への要望を平成26年7月に行いました。
- 2 成田・羽田両空港間において同一空港並みの利便性を実現させるため、国策としてリニアモーターカー構想を検討するよう、国への要望を平成26年7月に行いました。
- 3 県内外と成田空港のスムーズな人・ものの流れの強化、さらには全国や県内各地との交流や連携を促進するため、圏央道、東京外かく環状道路（外環道）、北千葉道路など県内の高規格幹線道路等の整備促進を図りました。
- 4 圏央道については、茨城県の稲敷インターチェンジと神崎インターチェンジまでの間が平成26年4月に開通し、本県に新たな北の玄関口が誕生しました。
- 5 北千葉道路において、国道464号の全線を直轄管理区間とすること、特に西側区間（小室IC以西）については、すみやかに直轄管理区間とし早期に直轄事業として整備するよう、国への要望を平成26年11月に行いました。また、東側区間について国と分担し橋梁等の整備を進めました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・平成22年に成田新高速鉄道（成田スカイアクセス）が開業したことで空港アクセスは飛躍的に向上しましたが、成田・羽田両空港の一体的活用を推進し、首都圏の国際競争力を維持・強化していく観点から、都心と成田・羽田両空港間の更なるアクセス改善が必要です。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・都心と成田・羽田両空港間の更なるアクセス改善に向け、鉄道アクセス改善（都心直結線）及びリニアモーターカーについて検討する必要があることから、国による都心直結線の検討に協力するとともに、鉄道アクセス改善及びリニアモーターカー構想について、国への要望活動を行います。
- ・成田空港と県内外とのアクセス強化と高規格幹線道路等の整備について引き続き、地元市町村及び県内経済団体などの関係団体と連携を図りながら、国に強く働きかけます。
- ・更なる道路整備の推進を図るため、早期供用の見込める箇所から重点的に工事を進めます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 22,050,900 千円（28年度）

46,875 千円

・成田空港への交通アクセス強化に資するため、成田空港から県内観光地を直接結ぶバスの実証運行に必要な経費を措置しました。（27年度2月補正）

12,680,000 千円

・高規格幹線道路等の整備を一層促進していくために必要な予算を措置しました。（28年度）

9,370,900 千円

・北千葉道路及び空港周辺の道路整備を推進するために必要な予算を措置しました。（28年度）

※なお、個別の事業の掲載については、関連事業も含めているため、合計額と一致ししない。

〔事務改善〕

・引き続き、空港アクセスの更なる改善のための要望活動を行います。（28年度）

・引き続き、関係団体と連携を図りながら、高規格幹線道路の整備促進を国に強く働きかけます。

（28年度）

・今後も早期に供用が見込める箇所に重点投資を図るなど、更に効率的な整備に努めます。（28年度）

【注】

（1）都心直結線：東京都心と成田・羽田両空港間のアクセス時間の短縮を図るため、浅草線の押上駅付近と泉岳寺駅付近を直接結び、途中で東京駅に接着する地下鉄（短絡線）を新たに整備する構想です。

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 成田空港への交通アクセスの強化		コードNo.	Ⅲ-1-③-4				
担当課	総合企画部交通計画課、 県土整備部道路計画課、道路整備課		総合計画掲載ページ	190				
【指標による取組の判定】								
指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：1 (50%)] 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず								
【主な取組の指標】								
指標名：北千葉道路の整備 (単位：km)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	延長 13.5km 整備中	橋梁等の 工事を進め ました	印旛沼渡河 橋等の工事 を進めました	印旛沼渡河 橋等の工事 を進めました	印旛捷水路 橋等の工事 を進めました	印旛沼渡河 橋等の工事 を進めました		
目標値		橋梁等の 工事を進め ます	印旛沼渡河 橋等の工事 を進めます	印旛沼渡河 橋等の工事 を進めます	印旛捷水路 橋等の工事 を進めます	印旛沼渡河 橋等の工事 を進めます		
指標名：高規格幹線道路整備率 (単位：%)								
	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
実績値	70.0	70.0	70.0	78.0	85.3	85.6		
目標値		24年度に 89%になる よう、整備 を進めます	24年度に 89%になる よう、整備 を進めます	24年度に 89%になる よう、整備 を進めます	78.3	89.1		

高規格幹線道路整備率 (%)

年度	実績値 (%)	目標値 (%)
H21	70.0	
H22	70.0	
H23	70.0	
H24	78.0	
H25	85.3	78.3
H26	85.6	89.1
H27		
H28		

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	④東京湾アクアラインと圏央道が拓く魅力ある地域づくり			コードNo.	Ⅲ-1-④
施策主務課	商工労働部経済政策課			総合計画掲載ページ	191
施策の目標	東京湾アクアライン（以下「アクアライン」という。）と首都圏中央連絡自動車道（以下「圏央道」という。）を有効に活用することにより、本県が持っている多くの宝・ポテンシャルを開花させるとともに、更に磨きをかけ、県内経済の活性化や地域振興を進めていきます。				
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	20,382,280千円 (9月補正後)	20,415,056千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	17,456,984千円	12,911,933千円	千円	千円	
【施策の実施状況の判定】					
進展が図られています・概ね進展が図られています・一部の進展にとどまっています					
目標を達成した取組数		目標を概ね達成した取組数	目標に届かなかった取組数		
1 (25%)		3 (75%)	0 (0%)		
【施策内の主な取組の実施状況】					
1	アクアライン・圏央道を活用した戦略的な観光振興				目標を達成
2	アクアライン・圏央道を活用した地域間交流の促進と地域活性化				目標を概ね達成
3	アクアライン・圏央道沿線地域への企業誘致と産業の振興				目標を概ね達成
4	アクアライン着岸地・圏央道沿線地域の整備促進				目標を概ね達成
【政策の実施状況・上位政策への貢献】					
<ul style="list-style-type: none"> ・計画の指標の「観光入込客数」や「宿泊客数」は、ともに震災・原発事故等の減少から増加に転じており、本県を訪れた観光客に「また訪れたい」と感じてもらえる観光地づくりや季節に応じた観光キャンペーンを軸に、アクアライン料金引下げ及び圏央道等を最大限活用した積極的なPR活動への取組が寄与していると考えられます。 ・圏央道では平成26年4月に茨城県の稲敷インターチェンジから神崎インターチェンジ間が開通し、本県に新たな北の玄関口が誕生し、地域の交流と連携の強化や物流の効率化などにさらなる期待が高まります。また、東京湾アクアライン・圏央道の利便性向上の効果といった企業立地における優位性の高まりを踏まえ、効果的な誘致活動を展開するなど、1社の新規立地に結びつきました。さらに県内への企業誘致を一層推進するため、知事によるトップセールスや積極的な企業訪問により、本県の持つ優れた立地優位性の発信に努めてまいります。 ・主な取組の行政活動目標等の達成状況から、施策全体では概ね進展が図られています。また、東京湾アクアラインと圏央道を有効に活用することによる利便性の向上がもたらす県内経済の活性化や地域振興の実現など千葉の輝く魅力づくりの実現に向け貢献したと考えられます。 					

【今後の課題と取組方針】

〔課題（指標の状況、政策への貢献度を向上させるために解決すべき課題）〕

- ・4つの主な取組のうち、「アクアライン・圏央道沿線地域への企業誘致と産業の振興」の取組については、概ね進展が図られていますが、企業がかずさアカデミアパークへ立地する際の手続きを優先したことが目標を達成できなかった原因です。引き続き成長性のある中堅企業を中心に企業訪問を積極的に実施し、新たな立地企業の開拓を進めることが必要です。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・新たな立地企業を開拓するため、アクアライン対岸地域や県北西部等の成長性のある企業が集積している地域を重点地域として広報活動及び積極的な企業訪問を実施するなど、より一層の誘致活動を展開します。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕計21,975,767千円（28年度）

- ・地域高規格道路や国道・県道の整備効果の早期発現に向け、早期供用が図れる事業は重点的に予算措置をしました。（28年度）

〔事務改善〕

- ・観光関連施設整備の推進のため、民間事業者による観光公衆トイレの整備に対しては、引き続き補助率をかさ上げして支援を強化します。（28年度）
- ・圏央道の神崎・大栄間の開通、成田空港の第3旅客ターミナルビルの供用開始など、ポテンシャルがますます高まっていることから、「企業誘致セミナー」を活用して、トップセールスを行うなど本県の魅力や立地優位性を広くPRするとともに、立地企業補助金制度の活用や金融機関、県内市町村との連携強化により、様々な進出形態による企業の立地を促進します。（平成28年度）
- ・圏央道の県内区間の一日も早い全線開通が図れるよう国などに働きかけるとともに、大栄・横芝間の用地取得が円滑に進むよう、国に積極的に協力していきます。（28年度）

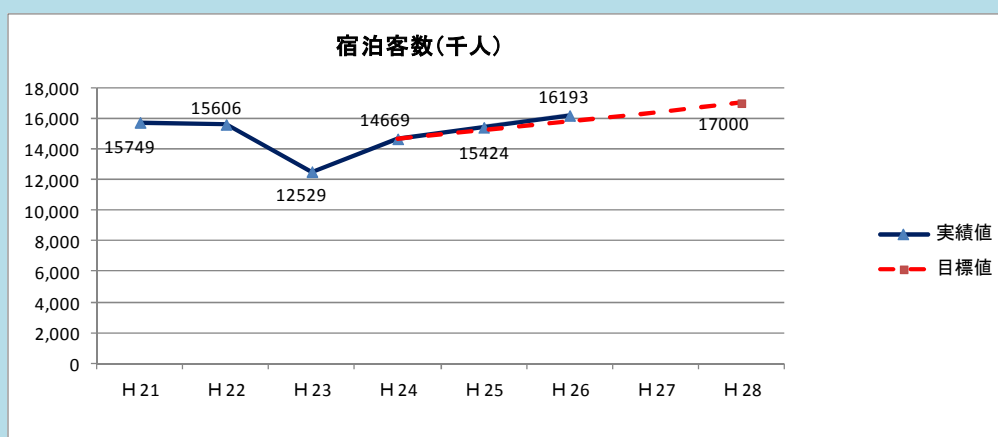
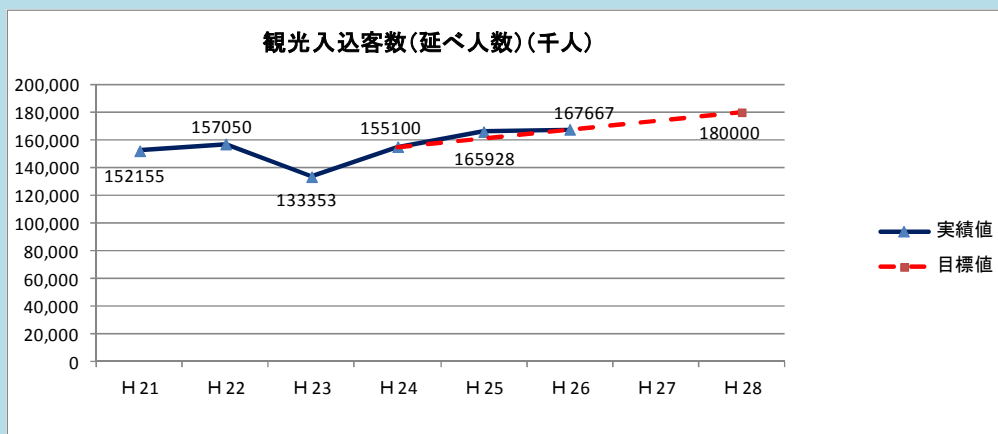
千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	④東京湾アクアラインと圏央道が拓く魅力ある地域づくり	コードNo.	3-1-④
施策主務課	商工労働部経済政策課	総合計画掲載ページ	193

【計画に掲げた政策の指標（この施策に関連する指標の抜粋）】

指標名：観光入込客数（延べ人数）								目 標
(単位：千人)								
21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	(28年度)
152,155	157,050	133,353	155,100	165,928	167,667			180,000
指標名：宿泊客数								目 標
(単位：)								
21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	(28年度)
15,749	15,606	12,529	14,669	15,424	16,193			17,000

*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 アクアライン・圏央道を活用した戦略的な観光振興		コードNo.	Ⅲ-1-④-1
担当課	商工労働部観光企画課、観光誘致促進課 教育庁教育振興部体育課		総合計画掲載ページ	192
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	330,726千円 (9月補正後)	477,032千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	271,677千円	437,483千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を達成	
【主な実施事項と成果】				
<p>1 本県を訪れた観光客に「また訪れたい」と感じてもらえる観光地づくりを進めるため、市町村等が実施するトイレや駐車場などの観光関連施設の整備に対し助成を行うとともに、観光ボランティアガイドなど観光に携わる人たちの人材育成やおもてなし力の向上のため研修会を実施しました。</p> <p>2 夏、秋、早春の季節に応じた観光キャンペーンを軸に、アクアライン料金引き下げ及び圏央道東を最大限活用して、年度当初から年間を通じた積極的なプロモーション活動に取り組むとともに、木更津アウトレットパーク内に開設した「チーバくんプラザ」を活用し、観光案内や観光イベントの開催などにより、県内各地への誘客を図りました。</p> <p>3 「ちばアクアラインマラソン」の開催に伴い、物産展の開催や、ランナー向けに特産品を給食提供するなどを通じて本県の魅力を最大限にPRしました。</p>				
【今後の課題と取組方針】				
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京湾アクアライン・圏央道の利便性向上などにより本県への観光客の増加が見込まれることから、県内観光地の観光関連施設の整備や宿泊・長期滞在について、これまで以上に広く市町村や民間事業者に対する助成について促進させていく必要があります。 <p>〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県へのアクセス環境の向上などを好機として魅力ある観光地づくりを推進するため、26年度に引き続き、トイレ、駐車場などの観光関連施設の整備を促進するとともに、特に民間トイレの補助率を引き上げトイレ整備のスピードアップを目指します。 また、宿泊・滞在型観光推進事業については、特にアクアライン等を活用した事業に対しては補助率を高くすることで、支援を強化しています。 				
【26年度の評価結果の反映】				
<p>〔組織・人員〕</p> <p>〔コスト（予算）〕 計582,756千円（28年度） 魅力ある観光地づくりや観光プロモーション推進に必要な経費を措置しました。（28年度）</p> <p>〔事務改善〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光関連施設整備の推進のため、民間事業者による観光公衆トイレの整備に対しては、引き続き 				

補助率をかさ上げして支援を強化します。(28年度)

- ・ 宿泊・滞在額観光推進事業については、アクアラインや圏央道を活用した事業について、引き続き補助率をかさ上げし、地域の取組みを推進します。(28年度)
- ・ 観光公衆トイレの整備及び維持管理を図るため、各地域振興事務所と連携の上、市町村や民間事業者などトイレの設置管理者に対し、パンフレットの配布等によりトイレ美化への取組みを促すとともに、観光客が安心して利用できるトイレを「おもてなしトイレ」としてホームページで紹介していきます。(28年度)
- ・ 平成27年6月に開通した圏央道(神崎～大栄間)及び28年度中に北関東地域の区間が全面開通予定のため、開通後アクセス向上により来訪が見込まれる北関東地域等を対象とした団体バスツアー優待プロモーションを実施します。(28年度)
- ・ 夏期に比べ観光入込客数が落ち込む秋の観光シーズンに、鉄道を活用した周遊観光プロモーション事業や千葉県道路公社有料道路の無料開放事業を実施します。(28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 アクアライン・圏央道を活用した戦略的な観光振興	コードNo.	Ⅲ-1-④-1
担当課	商工労働部観光企画課、観光誘致促進課 教育庁教育振興部体育課	総合計画掲載ページ	192

【指標による取組の判定】

指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：2 (100%)]

目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

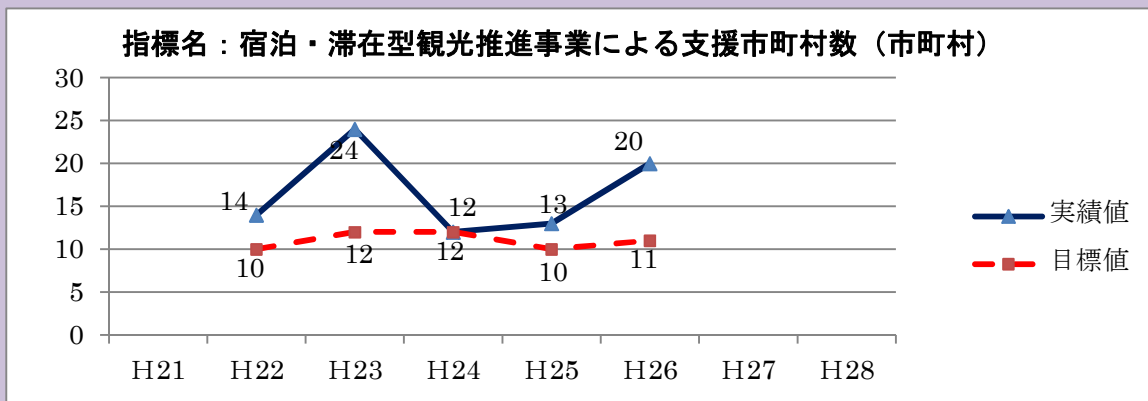
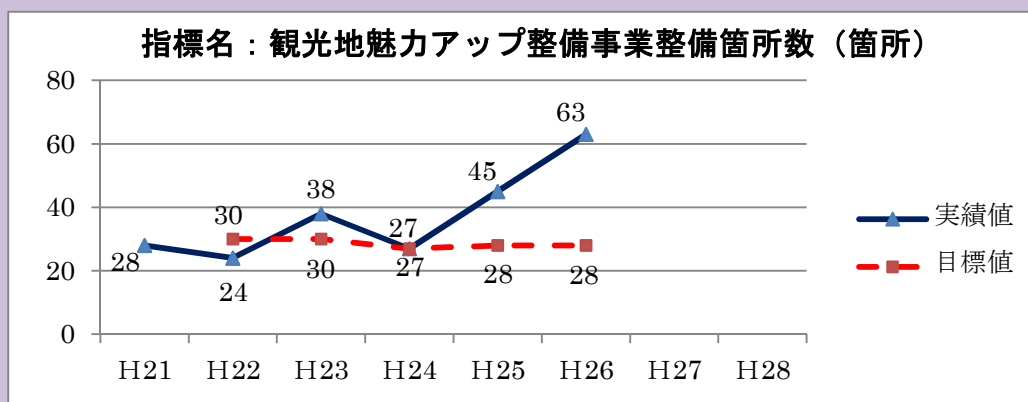
【主な取組の指標】

指標名：観光地魅力アップ整備事業整備箇所数 (単位：箇所)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	28	24	38	27	45	63		
目標値		30	30	27	28	28		

指標名：宿泊・滞在型観光推進事業による支援市町村数 (単位：市町村)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	—	14	24	12	13	20		
目標値		10	12	12	10	11		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 アクアライン・圏央道を活用した地域間交流の促進と地域活性化			コードNo.	Ⅲ-1-④-2
担当課	商工労働部経済政策課、 総合企画部政策企画課、 環境生活部県民生活・文化課、 農林水産部流通販売課、水産局水産課			総合計画掲載ページ	193
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	119,701千円 (9月補正後)	207,829千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	92,646千円	116,845千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成		

【主な実施事項と成果】
<p>1 10～11月の2か月間、県内の農林水産物直売所113店舗が参加する「ちばの直売所フェア」を開催し、スタンプラリーのほか、ちばアクアラインマラソンイベント会場でのPR、アクアラインの対岸である神奈川県川崎市でのキックオフイベント、神奈川県民を対象としたモニターバスツアーなどを実施しました。また、県内9地域で農林水産物直売所の関係者等を対象とした研修会を実施し、地域の魅力向上のために取り組みました。</p> <p>2 農林漁業者が自ら生産から加工・流通や販売まで携わり経営の多角化を目指す「6次産業化」を支援するため、千葉県6次産業化サポートセンターを設置し、プランナー派遣による六次産業化法の総合化事業計画の認定支援や研修会・異業種交流会などを開催しました。この結果、県内で新たに9件の総合化事業計画が認定され、1件に対し加工施設整備の助成を行いました。</p> <p>3 県民に千葉の魅力を認識・再発見してもらい、地域の活性化を図るため、地域振興事務所のある10地域及び千葉・市原の合計11地域で県民の日実行委員会を組織し、地域の特色を活かした事業を企画・運営するための補助を行いました。</p> <p>4 県民の千葉を愛する心をはぐくむため、6月15日の県民の日を中心に、県、市町村及び各種団体等において、337件の賛同行事が実施され、パンフレットやホームページ、県民だよりで施設の無料開放や記念イベントなどの広報を行いました。</p> <p>5 地域経済の基盤を支える中小企業及び農林漁業者のそれぞれが有するノウハウを活かした連携によって県内経済の活性化を図ることを目的とし、ちば農商工連携支援基金及び千葉中小企業元気づくり基金により9件の新商品・新役務・特産品等の開発に助成をしたほか、2件の販路開拓支援、16件の研究開発支援を実施し、県内地域経済の活性化を図りました。</p>
【今後の課題と取組方針】
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ちばの直売所フェア」については、スタンプラリー応募者のアンケート結果やモニターバスツアー参加者の意見などをもとに、より魅力的な内容にし、一層の認知度と集客アップを図る必要があ

ります。

- ・六次産業化法の認定件数（累計）は目標を達成しましたが、県のサポートセンターの研修会、交流会への延べ参加者数については達成できませんでした。新たに6次産業化に取り組む事業者の発掘を推進する必要があります。
- ・県民の日事業では、企業や公共施設などによる賛同行事が、震災前の実施数を上回り順調に増加していますが、これを継続するため、さらに、企業等へ参加の呼びかけを行っていくことが必要です。
- ・農商工連携事業支援基金及びちば中小元気づくり基金のさらなる普及を目指すため、関係団体等と連携し基金の周知をする必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・「ちばの直売所フェア」については、好評だったスタンプラリーを継続するとともに、首都圏でのPRイベントを行い、より多くの方々に県内の農林水産物直売所を知っていただき、訪問していただくような魅力ある企画運営を行います。
- ・千葉県6次産業化サポートセンターの設置・運営を通して、農林漁業者の6次産業化を支援し、総合化事業計画の認定推進及び認定者に対するフォローアップを行います。支援に当たっては、プランナーを公募で質の高い人材を確保し、市町村や国等と連携したサポート体制作りを行います。また、新たに6次産業化に取り組む農林漁業者を増やすため、魅力ある研修会や交流会を開催します。
- ・県内の経済団体や農業関係団体等の関係機関と積極的に連携し、農商工連携促進プロジェクトチームを開催することにより取組を強化するとともに、助成後のフォローアップによって事業の効果的な実施を目指します。
- ・多彩で個性あふれる千葉の文化や歴史、自然、産業等に触れ、体感することのできる行事を県の各地域において、市町村や各種団体等と連携して実施します。

【26年度の評価結果の反映】

〔コスト（予算）〕計363,003千円（28年度）

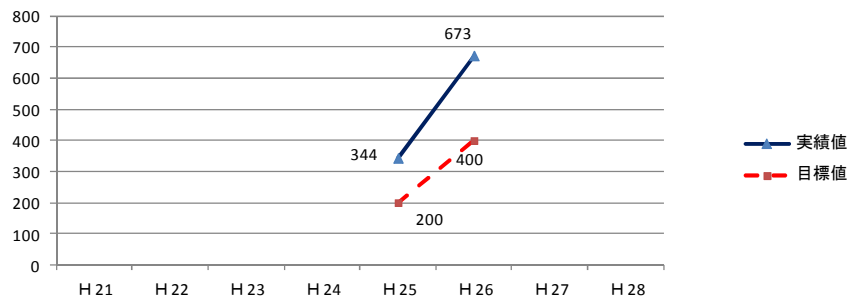
〔事務改善〕

- ・県民の日について、10地域振興事務所及び千葉・市原地域で地域行事の実施に係る補助を行いました(27年度)。この取り組みを継続し、11地域で引き続き地域行事を実施します(28年度)。
- ・県民の日の趣旨・行事内容・賛同行事等を掲載したパンフレットについて、県民の日の周知に繋がるよう、より効果的な配布先を検討します。(28年度)
- ・都市住民の漁村への来訪を促進し漁村地域の活性化を図るため、引き続き水産物直売所に特化した情報を満載したガイドブックを作成し、観光キャンペーンなどとも連携したPRを実施します。(28年度)
- ・6次産業化の推進を図るため、千葉県における6次産業化の現状や課題、取組方針、今後の成果目標等を定める「千葉県の農林漁業における6次産業化の推進方策（千葉県6次産業化戦略）」を策定しました。(27年度)

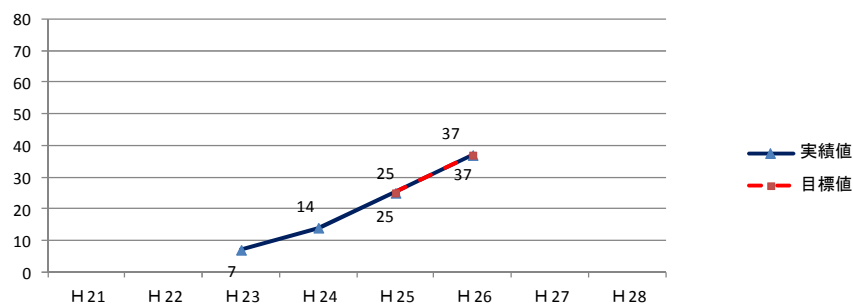
千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 アクアライン・圏央道を活用した地域間交流の促進と地域活性化				コードNo.	Ⅲ-1-④-2		
担当課	商工労働部経済政策課、 総合企画部政策企画課、 環境生活部県民生活・文化課、 農林水産部流通販売課、水産局水産課				総合計画掲載ページ	193		
【指標による取組の判定】								
指標の数：5 [うち目標を達成した指標の数：3 (60%)] 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず								
【主な取組の指標】								
指標名：農林水産物直売所などの交流拠点の魅力向上のための研修会 受講者数（累計） (単位：人)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				—	344	673		
目標値				—	200	400		
指標名：6次産業化法の認定件数（累計） (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値			7	14	25	37		
目標値					25	37		
指標名：県のサポートセンターの研修会、交流会へののべ参加者数（累計） (単位：人)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値					128	354		
目標値					120	450		
指標名：「ちば農商工連携事業支援基金」により助成を行った新商品開発等 支援事案件数（累計） (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	6	15	25	37	49	55		
目標値			25	34	48	60		
指標名：農商工連携や6次産業化による商品開発取組数（累計） (単位：件)								
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値				86	109	127		
目標値					96	106		

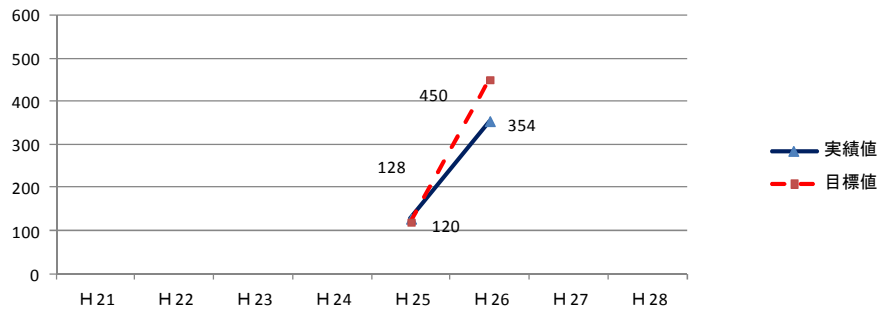
農林水産物直売所などの交流拠点の魅力向上のための研修会受講者数(累計)(人)



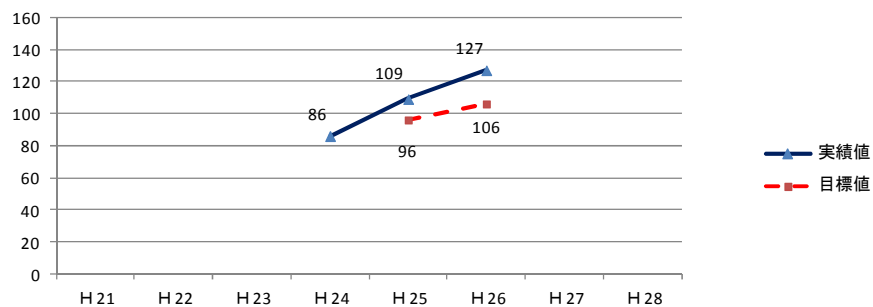
六次産業化法の認定件数(累計)(件)



県サポートセンターの研修会、交流会へのべ参加者数(累計)(人)



農商工連携や六次産業化による商品開発取組数(累計)(件)



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 アクアライン・圏央道沿線地域への企業誘致と産業の振興		コードNo.	Ⅲ-1-④-3
担当課	商工労働部企業立地課、経済政策課、経営支援課、産業振興課 企業庁管理・工業用水部工業用水課		総合計画掲載ページ	193
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	4,242,437千円 (9月補正後)	3,827,594千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	3,686,284千円	3,265,983千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成	

【主な実施事項と成果】

- 1 県内への企業誘致を一層推進するため、国内外企業へのアンケートや電話相談等を踏まえ、1,322件の企業訪問活動や知事によるトップセールス、海外企業への直接営業活動などを実施し、本県の魅力を積極的にアピールし、本県の持つ優れた立地優位性の発信に努めることで、前年度を24件上回る78件の企業立地に成功しました。
- 2 「かずさアカデミアパーク事業の新たな展開」の方針に基づく立地環境整備に加え、アクアライン通行料金引下げの継続や圏央道延伸といった交通インフラの整備の効果を企業立地における優位性の高まりを踏まえながら、効果的な誘致活動を展開した結果、平成26年度は1社の新規立地に結び付けました。さらに、既に立地している企業等への要望等の聴取を継続的に実施していた成果として、2件の施設増設に結び付けました。
- 3 「茂原にいはる工業団地」と「袖ヶ浦椎の森工業団地」については、実施設計を完了し、また、少しでも早期に分譲が開始できるよう、平成27年度から予定していた造成工事のうち、仮設道路工事・地盤改良工事について本年度に前倒しして着手しました。また、早期分譲を図るため、パンフレットを作成し、誘致活動を開始しました。
- 4 農林漁業者と商工業者との連携等、地域の資源を活用した新商品の開発や販路開拓、対岸地域である東京・神奈川の事業者との取引機会の創出・拡大を促進し、地域産業の振興を図りました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・海外移転の加速など国内産業の空洞化が懸念されているところですが、内需型産業などの首都圏への立地需要は底堅い動きを見せています。今後も最新の企業の投資動向に注意し、企業立地の促進と地域産業の振興を図っていく必要があります。また、全国的に立地面積が増加している太陽光発電施設（メガソーラー）を含む新エネルギー分野や医療機器を中核とする健康医療ものづくり産業分野の投資など、今後需要の見込まれる成長分野にも注視し、これに対応することが必要です。
- ・かずさアカデミアパークについては、企業立地が進展し、残りの区画も減少していますので、立地を希望する企業の要望に応える柔軟な対応が必要です。

- ・平成 26 年度は企業立地手続きを優先したため、企業訪問件数が 74 件でした。平成 27 年度は、成長性のある中堅企業を中心に企業訪問を積極的に実施することで、新たな立地企業の開拓を進めることが必要です。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・立地企業補助金の助成制度の周知や有効活用を図ることで、様々な進出形態による企業の立地を促進するとともに、東京に並ぶ経済圏である関西地区に企業誘致専門員を配置して関西地区からの企業誘致を強化します。
- ・太陽光発電設備や省エネルギー設備に対する補助事業などに引き続き取り組んでいくとともに、引き続きワンストップ窓口を開設し、事業者や市町村に対する相談に的確に対応していきます。
- ・かずさアカデミアパークについては、立地を希望する企業等の要望に応じて必要があれば区画の分割等による小区画化を行います。新たな立地企業を開拓するため、アクアライン対岸地域や県北西部等の成長性のある企業が集積している地域を重点対象として広報活動及び積極的な企業訪問を実施するなど、より一層の誘致活動を展開します。
- ・「茂原にいはる工業団地」と「袖ヶ浦椎の森工業団地」について、平成 26 年度に前倒しして着手した仮設道路工事等を引き続き行うとともに、整地工事等に本格着手します。また、早期分譲を図るため、引き続き誘致活動にも取り組んでいきます。

【26 年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕 計 6, 161, 143 千円（28 年度）

〔事務改善〕

・首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の神崎・大栄間の開通、成田空港の第 3 旅客ターミナルビルの供用開始などポテンシャルの向上など本県の魅力や立地優位性を「企業誘致セミナー」でのトップセールスや積極的な企業訪問などにより広く PR するとともに、立地企業補助金制度の活用や金融機関、県内市町村との連携強化により、様々な進出形態による企業の立地を促進します。（28 年度）

・かずさアカデミアパークの魅力を広く周知するため、対岸のターミナル駅や空港に PR 看板を設置し広報に努めるとともに、地元市町村と協力して戦略的な誘致に取り組めます。さらに、立地企業が増加する中で、かずさアカデミアパーク内での施設増設も行われていることから、立地企業からの評価が更に高まるよう、要望の聴取など継続的なフォローアップを実施していきます。（平成 28 年度）

・茂原にいはる工業団地、袖ヶ浦椎の森工業団地の整備については、平成 29 年度分譲開始に向けて引き続き整備を進めるとともに、早期分譲のため現地見学会を開催いたします。

（平成 28 年度）

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 アクアライン・圏央道沿線地域への企業誘致と産業の振興	コードNo.	Ⅲ-1-④-3
担当課	商工労働部企業立地課、経済政策課、 経営支援課、産業振興課 企業庁管理・工業用水部工業用水課	総合計画掲載ページ	193

【指標による取組の判定】

指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：1 (50%)]
 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

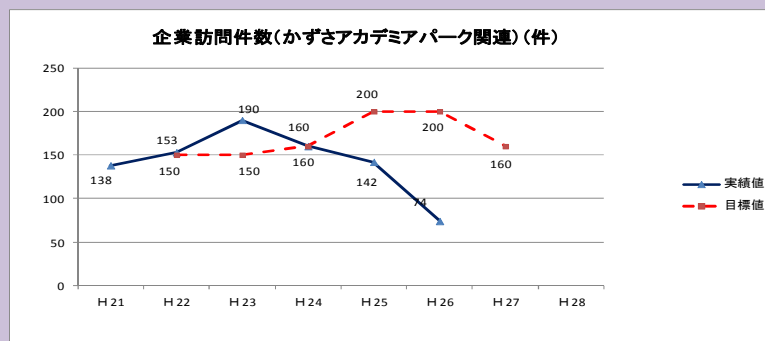
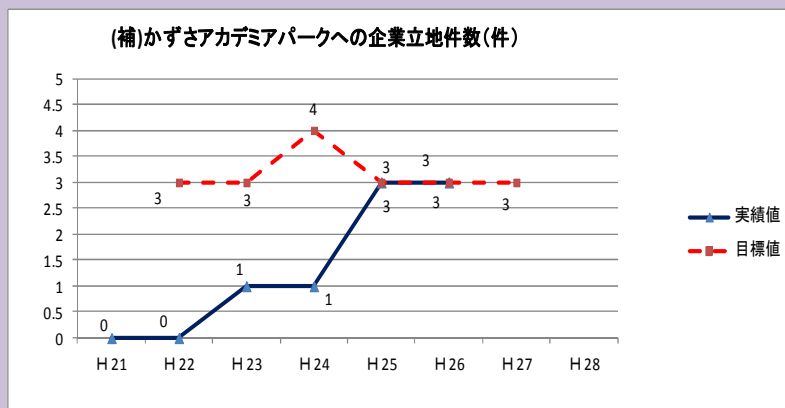
【主な取組の指標】

指標名：(補)かずさアカデミアパークへの企業立地件数 (単位：件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	0	0	1	1	3	3		
目標値		3	3	4	3	3		

指標名：企業訪問件数(かずさアカデミアパーク関連) (単位：件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	138	153	190	160	142	74		
目標値		150	150	160	200	200		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 アクアライン着岸地・圏央道沿線地域の整備推進			コードNo.	Ⅲ-1-④-4
担当課	県土整備部道路計画課、道路整備課、港湾課、都市整備局市街地整備課 総合企画部交通計画課			総合計画掲載ページ	194
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	15,689,416 千円 (9月補正後)	15,902,601 千円 (当初)	千円 ()	千円 ()	
決算額	13,406,377 千円	9,091,622 千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成		

【主な実施事項と成果】

- 地域の交流と連携の強化や、物流の効率化などを図るため、道路網の骨格をなす圏央道の県内区間の早期全線開通が図られるよう国などに働きかけました。圏央道については、茨城県の稲敷インターチェンジと神崎インターチェンジまでの間が平成26年4月に開通し、本県に新たな北の玄関口が誕生しました。
- 銚子連絡道路など高速道路を補完する国道・県道の整備を進めました。
- アクアラインや高規格幹線道路（圏央道・館山道）と主要な観光地エリアを結ぶアクセス道路の整備を進めました。
- 木更津市金田西地区では、アクアラインの着岸地としてのポテンシャルを生かした土地利用の促進が図れるよう、土地区画整理事業により都市計画道路などの公共施設をはじめとする基盤整備を推進しました。
- 港湾の利便性やサービスの向上などを図るため、木更津港の整備を進めました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- ・アクアラインの通行料金値下げによる県内経済活性化に大きな効果をもたらすためには、地域高規格道路や国道・県道の更なる整備促進を図り、道路ネットワークの充実・強化を早期に実現することが必要です。
- ・地域の交流と連携の強化や、物流の効率化などを図るため、道路網の骨格をなす圏央道の県内区間の一日も早い全線開通が必要です。
- ・金田西特定土地区画整理事業の事業整備面積は、一部の建物移転交渉に時間を要しましたが、概ね達成でき、今後も早期の土地活用が望まれており、事業の一層の推進が求められています。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・引き続き、圏央道の県内区間の一日も早い全線開通が図られるよう国などに働きかけるとともに、大栄横芝間の用地取得が円滑に進むよう、国に積極的に協力していきます。
- ・引き続き、高速道路を補完する国道・県道の整備を進めます。

- ・ 県内経済の活性化に寄与するため、アクアラインや高規格幹線道路（圏央道・館山道）と主要な観光地を結ぶ幹線道路との連携により、観光エリアへのアクセスを強化します。
- ・ 引き続き、大型街区の造成や、周辺道路の整備を進め、土地利用が図れるよう、効率的に事業を推進します。

【 26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕 計 14,868,865 千円（28年度）

- ・ 金田西特定土地区画整理事業を一層推進するために必要な経費を措置しました。（28年度）
- ・ 高規格幹線道路等の整備を一層促進していくために必要な予算を措置しました。（28年度）
- ・ 地域高規格道路や国道・県道の整備効果の早期発現に向け、早期供用が図れる事業は重点的に予算・措置をしました。（28年度）
- ・ 観光地へのアクセスを強化する道路の整備を一層推進していくために必要な経費を措置しました。
(28年度)
- ・ 木更津港の港湾整備を促進し、地域の交流や物流の効率化を一層推進していくために必要な予算を措置しました（28年度）

〔事務改善〕

- ・ 土地区画整理事業については、事業計画の見直しや関係機関等との事業調整に民間のノウハウを活用するなど、効率的に事業を推進します。（28年度）
- ・ 圏央道の県内区間の一日も早い全線開通が図られるよう国などに働きかけるとともに、大栄－横芝間の用地取得が円滑に進むよう、国に積極的に協力していきます。（28年度）
- ・ 今後も早期に供用が見込める箇所に重点投資を図るなど、更に効率的な整備に努めます。
(28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 アクアライン着岸地・圏央道沿線地域の整備推進	コードNo.	III-1-④-4
担当課	県土整備部道路計画課、道路整備課、港湾課、 都市整備局市街地整備課 総合企画部交通計画課	総合計画掲載ページ	194

【指標による取組の判定】

指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：1 (50%)]
 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

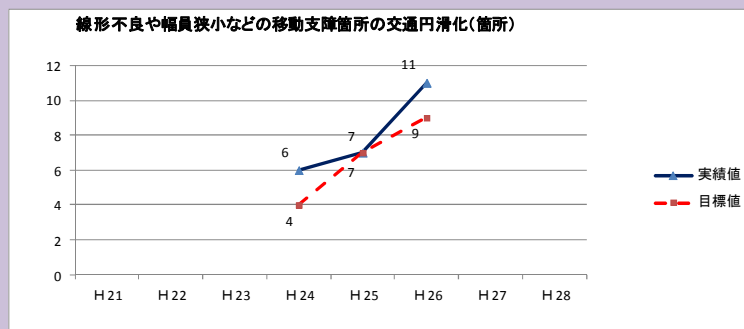
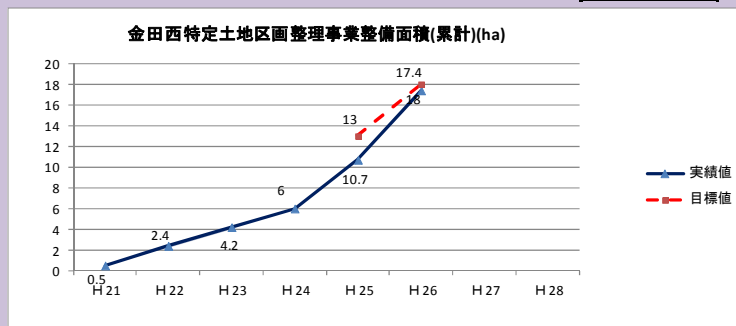
【主な取組の指標】

指標名：金田西特定土地区画整理事業整備面積(累計) (単位：ha)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	0.5	2.4	4.2	6.0	10.7	17.4		
目標値					13.0	18.0		

指標名：線形不良や幅員狭小などの移動支障箇所の交通円滑化 (単位：箇所)

	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年
実績値				6	7	11		
目標値				11箇所中 4箇所目の 整備を推 進します	11箇所中 7箇所目の 整備を推 進します	11箇所中 9箇所目の 整備を推 進します		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	千葉の「宝」を生かした観光立県の推進			コードNo.	Ⅲ-1-⑤
施策主務課	商工労働部観光企画課			総合計画掲載ページ	195
施策の目標	本県の持つ魅力を十分に生かした魅力的な観光地づくりを推進するとともに、効果的なプロモーション活動により観光入込客・宿泊客をはじめとする交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化を目指します。				
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	190,666,316千円 (9月補正後)	190,884,111千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	161,784,926千円	146,485,341千円	千円	千円	

【施策の実施状況の判定】

進展が図られています・概ね進展が図られています・一部の進展にとどまっています

目標を達成した取組数	目標を概ね達成した取組数	目標に届かなかった取組数
1 (25%)	2 (50%)	1 (25%)

【施策内の主な取組の実施状況】

1 何度でも訪れたい魅力ある観光地づくり	目標を達成
2 競争力のある観光産業の創出	目標を概ね達成
3 戦略的な国内観光プロモーションの展開	目標に届かず
4 国際的観光地としての地位の確立	目標を概ね達成

【政策の実施状況・上位政策への貢献】

- ・計画の指標である平成26年の「観光入込客数」及び「宿泊客数」については、現在、集計中です。
- ・誰もが何度でも訪れたい魅力ある観光地づくりに向けて、観光客の動向・ニーズを的確に把握するとともに、観光関連施設の整備に対し助成を行いました。また、地域への経済効果を高める観光客の滞在の長時間化や宿泊客の増加を図るため、市町村が行う宿泊滞在型観光推進の取組に対して支援を行いました。
- ・また、地域の観光産業以外の幅広い地元産業（農林水産業など）との連携を図ることを目的とした研修会を開催して観光振興を担う人材を育成するほか、基金を活用して新商品・新役務・特産品等の開発に助成し、観光産業を通じた県内地域経済の活性化を図りました。
- ・戦略的なプロモーションによる効果的な情報発信として大規模な観光PRイベントの開催及び季節に応じた切れ目ない観光キャンペーンや、マスメディア（在京記者取材会、放送メディア）、交通広告、地域情報誌等の媒体を効果的に活用して展開するなど積極的・集中的な情報発信を実施することにより、観光客の増加を図りました。
- ・日本の表玄関である成田国際空港を擁する優位性を生かし、外国人観光客の積極的誘致を図るため、東アジアやビザの発給要件緩和により訪日旅行者数が急増している東南アジアを中心に、知事のトップセールスによる海外での観光PRや国際観光展・商談会の開催等を実施するとともに、訪日教育旅行の誘致や海外との学校交流、地域経済の活性化に貢献する経済波及効果の大きい国際会議などの誘致に積極的に取り組みました。

- ・計画の指標のうち、目標に届かなかったものもありますが、これまでのプロモーション活動や、観光資源の磨き上げや新規作成、観光施設の整備などにより、地域と一体となった魅力ある観光地づくりの実現と交流人口の拡大に貢献しております。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（指標の状況、政策への貢献度を向上させるために解決すべき課題）〕

- ・各指標のうち、目標を達成しなかったものがあつたため、それらの改善に重点的に取組むとともに、本県観光の魅力をさらにPRし、県内に広く誘客するなど、第2次観光立県ちば推進基本計画の各種施策を着実に進行していく必要があります。
- ・また、東京オリンピック・パラリンピックを見据え、今後さらに増加が予想される訪日外国人旅行者への対応をこれまで外国人旅行者の多かった成田空港周辺地域や浦安地域だけでなく、千葉県全体に広げ戦略的に取組んでいく必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・観光業は裾野の広い産業で地域経済に与える影響も大きいことから、千葉県観光のファンやリピーターを増やしていくなど、時々の経済・社会状況に左右されない観光立県千葉の実現に向けて、引き続き市町村や地域の要望・状況等に応じて、観光トイレや観光案内板など観光関連施設の整備や魅力ある宿泊・滞在を促進に向け、民間の観光トイレの整備に対しては補助率を引き上げ、アクアライン等を活用した事業に対しては引き続き補助率を嵩上げて、地域の取組への支援を強化するとともに、オール千葉でのおもてなし力の向上や外国語ボランティアガイドの養成を通じて地域観光の担い手を育成するなど、誰もが何度でも訪れたい魅力ある観光地づくりを進めていきます。
- ・また、国の地方創生交付金を活用して、県産品の販路拡大や公衆無線 LAN 環境の整備、県内宿泊促進などの取組を強化していきます。
- ・観光ウェブサイトのアクセス数を高めるため、旬の情報を毎月特集するほか、リニューアル後に新設した Facebook ページも活用し、本県の魅力的な情報を幅広く、タイムリーに発信していきます。
- ・訪日外国人観光客を県内に広く誘客し、滞在を促進するため、海外のメディア、旅行会社、大学生などを招致した県内のモニターツアーを実施し、外国人から見た千葉の魅力の再確認を行い、訪日外国人の県内への誘客や滞在を促進します。また、研修会を実施し、オール千葉でのおもてなし力の向上や外国語ボランティアの養成を図るとともに、多言語での案内標記を推進します。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

訪日教育旅行の受入体制強化のため平成27年10月から嘱託を2名追加配置し、平成28年度においても継続して配置していきます。（27年度・28年度）

〔コスト（予算）〕

計 191,223,872 千円（28年度）

観光案内板の多言語化など外国人の受入体制の整備や、観光地のトイレ美化など魅力ある観光地づくり、海外メディアを活用した情報発信などの効果的な観光プロモーション推進等に必要な経費を措置しました。（28年度）

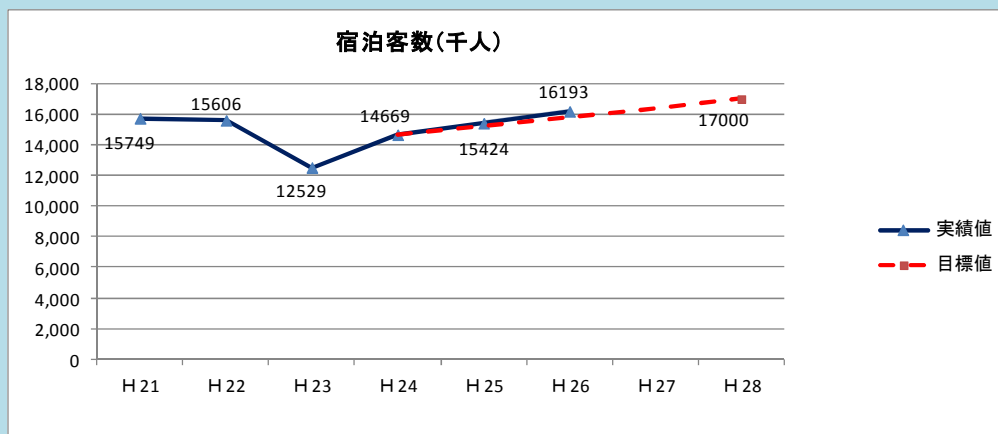
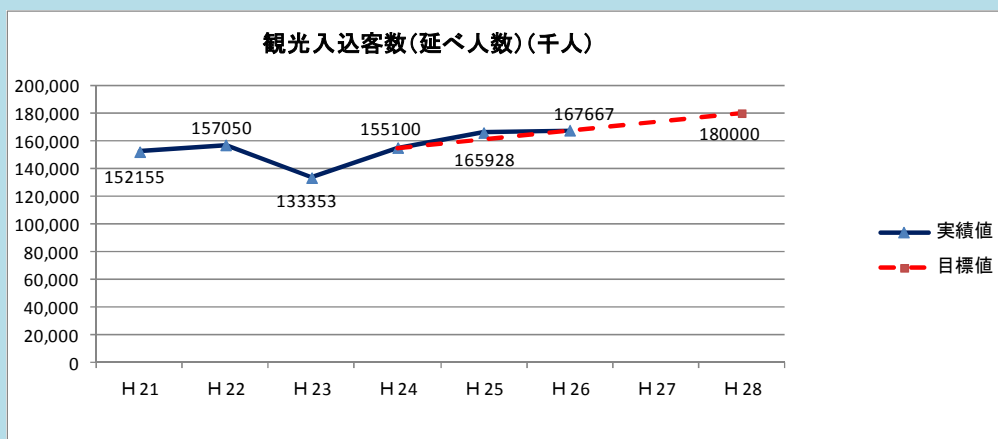
〔事務改善〕

- ・ 27年度に引き続き、試験的に期間限定で都内にアンテナショップを設置し、県の観光PRや県内観光事業者の販路拡大のための県産品販売などの実証実験を行います。(28年度)
- ・ 夏期に比べ観光入込客数が落ち込む秋の観光シーズンに、鉄道を活用した周遊観光プロモーション事業や千葉県道路公社有料道路の無料開放事業を実施します。(28年度)
- ・ 外国人観光客の誘致や受入体制の整備を戦略的に進めるための基礎情報とするため、東アジア、東南アジアを中心とした11カ国を対象に、各国別の嗜好性や行動パターンその他、観光地や土産物品等に対する感想・期待または不満等を分析する為の調査を実施しました(27年度)
- ・ 東京オリンピック・パラリンピックに向け、県内における受入体制・誘客を促進するため、国ごとの嗜好性を踏まえた外国人向け周遊コースづくりを進めるとともに、各種媒体による効果的な情報発信を行います。(28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－施策－

施策	千葉の「宝」を生かした観光立県の推進		コードNo.	Ⅲ-1-⑤				
施策主務課	商工労働部観光企画課		総合計画掲載ページ	195				
【計画に掲げた政策の指標（この施策に関連する指標の抜粋）】								
指標名：観光入込客数（延べ人数）							（単位：千人）	目 標
21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	（28年）
152,155	157,050	133,353	155,100	165,928	167,667			180,000
指標名：宿泊客数							（単位：千人）	目 標
21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	（28年）
15,749	15,606	12,529	14,669	15,424	16,193			17,000

*太線で囲んだ年度の数値は、目標設定時の現状値です。



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 何度でも訪れたいくなる魅力ある観光地づくり		コードNo.	Ⅲ-1-⑤-1
担当課	商工労働部観光企画課、観光誘致促進課		総合計画掲載ページ	196
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	234,000千円 (9月補正後)	331,449千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	191,634千円	298,969千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を達成	

【主な実施事項と成果】	
<p>1 各指標（「観光地魅力アップ整備事業整備箇所数」、「宿泊・滞在型観光推進事業による支援市町村数」）の目標を達成しました。</p> <p>特に、観光地魅力アップ整備事業については、民間事業者を含めた整備促進により観光客の満足度を高めるため、民間事業者が行う観光公衆トイレ整備の補助率の引き上げや、商工会議所・商工会、酒造組合等関係団体を通じた周知・PRの強化により、民間事業者による本事業の活用が促進され、整備箇所が大きく増加しました。</p> <p>2 観光公衆トイレや駐車場などの観光関連施設の整備に対し助成を行い、何度でも訪れたいくなる魅力ある観光地づくりを推進しました。</p> <p>3 このほか、観光施設・名所旧跡のおもてなし力向上などを通じた観光資源の磨き上げや、地域内の様々な団体が結びつくことによる有機的な連携を促進していくとともに、イベントや旅行商品の造成などの観光プログラムの充実などにより観光客の宿泊や滞在の長時間化を図るため、市町村等が行う宿泊・滞在型観光や大規模イベントの取組に対して助成を行いました。</p>	
【今後の課題と取組方針】	
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 東京湾アクアライン・圏央道の利便性向上などにより本県への観光客の増加が見込まれることから、県内観光地の観光関連施設の整備や宿泊・長期滞在について、これまで以上に広く市町村や民間事業者に対する助成について促進させていく必要があります。 <p>〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 本県へのアクセス環境の向上などを好機として魅力ある観光地づくりを推進するため、26年度に引き続き、トイレ、駐車場などの観光関連施設の整備を促進するとともに、特に民間トイレの補助率を引き上げトイレ整備のスピードアップを目指します。 また、宿泊・滞在型観光推進事業については、特にアクアライン等を活用した事業に対しては補助率を高くすることで、支援を強化しています。 	
【26年度の評価結果の反映】	
<p>〔組織・人員〕</p> <p>〔コスト（予算）〕</p> <p>計 477,650 千円</p>	

- ・魅力ある観光地づくりを推進するために必要な経費を措置しました。(28年度)

[事務改善]

- ・観光関連施設整備の推進のため、民間事業者による観光公衆トイレの整備に対しては、引き続き補助率をかさ上げして支援を強化します。(28年度)
- ・宿泊・滞在額観光推進事業については、アクアラインや圏央道を活用した事業について、引き続き補助率をかさ上げし、地域の取組みを推進します。(28年度)
- ・観光公衆トイレの整備及び維持管理を図るため、各地域振興事務所と連携の上、市町村や民間事業者などトイレの設置管理者に対し、パンフレットの配布等によりトイレ美化への取組みを促すとともに、観光客が安心して利用できるトイレを「おもてなしトイレ」としてホームページで紹介していきます。(28年度)

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	1 何度でも訪れたいくなる魅力ある観光地づくり		コードNo.	Ⅲ-1-⑤-1				
担当課	商工労働部観光企画課、観光誘致促進課		総合計画掲載ページ	196				
【指標による取組の判定】								
指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：2 (100%)]								
<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">目標を達成</div> ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず								
【主な取組の指標】								
指標名：観光地魅力アップ整備事業整備箇所数				(単位：箇所)				
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	28	24	38	27	45	63		
目標値		30	30	27	28	28		
指標名：宿泊・滞在型観光推進事業による支援市町村数				(単位：市町村)				
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	—	14	24	12	13	13		
目標値		10	12	12	10	11		

指標名：観光地魅力アップ整備事業整備箇所数(箇所)

年度	実績値	目標値
H21	28	28
H22	24	30
H23	38	30
H24	27	27
H25	45	28
H26	63	28

指標名：宿泊・滞在型観光推進事業による支援市町村数(市町村)

年度	実績値	目標値
H21	—	—
H22	14	10
H23	24	12
H24	12	12
H25	13	10
H26	20	11

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 競争力のある観光産業の創出		コードNo.	Ⅲ－1－⑤－2
担当課	商工労働部観光企画課、観光誘致促進課、 経済政策課、経営支援課、産業振興課		総合計画掲載ページ	197
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	190,086,460千円 (9月補正後)	190,086,252千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	161,282,904千円	145,777,393千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】		目標を概ね達成		

【主な実施事項と成果】

- 観光客の動向・ニーズを的確に把握するため、県内観光施設等における観光入込客等の調査及び観光客へのアンケート調査などを実施して、国の共通基準に基づいた観光統計を作成し、地域ごとの観光客の動向の分析や、回復の遅れている地域を重点化するなど実際の事業に反映させました。
 - 近年、旅行スタイルが団体旅行から個人旅行へ移行しつつあり、観光客の目的やニーズが多様化する傾向にあります。そこで、他地域と差別化し地域の特色を活かした観光振興を目指し、地域資源を多角的に活用するため、これまでの基礎的な講座からプログラム内容を見直し、講座の受講者が地域特性を活かした観光連携の指針としてすぐにでも地元連携活動を起こせるような実践的な「観光人材育成支援講座」を実施しました。
- 【全体会議（全2回66名出席）、分科会（3地域で各1回69人参加）、県外視察（全1回8名参加）】
- 地域経済の基盤を支える中小企業及び農林漁業者のそれぞれが有するノウハウを活かした連携によって県内経済の活性化を図ることを目的とし、ちば農商工連携事業支援基金及びちば中小企業元気づくり基金により9件の新商品・新役務・特産品等の開発に助成をしたほか、2件の販路開拓支援、16件の研究開発支援を実施し、県内地域経済の活性化を図りました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- 今後、東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、外国人観光客の増加が見込まれる中、外国人観光客にも満足いただけるように、県内の観光・宿泊施設の従業員等を対象とした人材の育成が求められています。また、地域の魅力を観光客に伝える観光ボランティアガイドについては、一部でガイドの高齢化等の課題を抱える一方で、外国人観光客へのニーズや対応を検討する必要があります。
- 「ちば農商工連携事業支援基金」により助成を行った新商品開発等支援事業件数は目標に達成しなかったため、これまで以上に農業関係団体との連携を強化し、基金の周知・活用を促進させていく必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- 県内の観光・宿泊施設の経営者や従業員を対象に、外国人観光客にも満足いただけるような先進的なおもてなしについて情報を共有する研修を行い、オール千葉でのおもてなし力の向上を図ります。また、観光ボランティアガイドについては、引き続き人材育成に努めるとともに、外国語観光ボランティアガイドを養成するための研修会を実施します。

- ・農商工連携促進プロジェクトチームの開催により農林水産部や農業関係団体との連携を強化し、より一層農商工連携の取組みを促進させていきます。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 190,103,098 千円

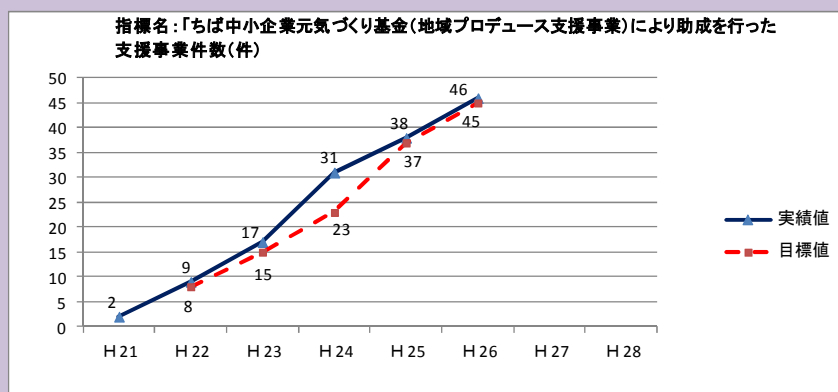
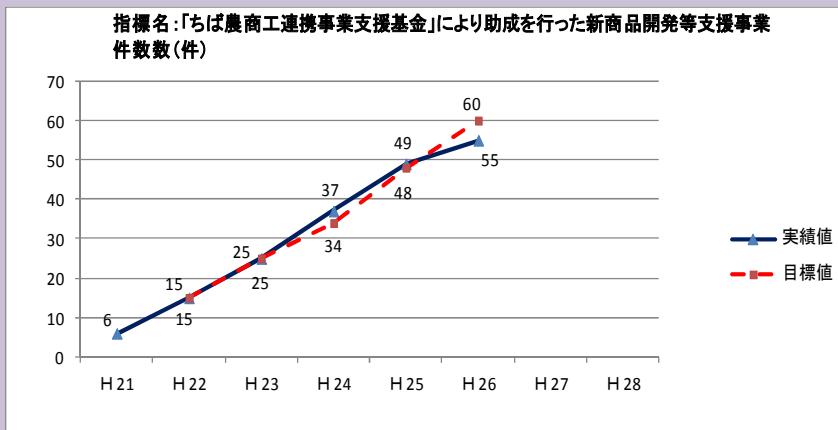
- ・県内観光施設等のおもてなし力向上を推進していくために必要な経費を措置しました。（28年度）
- ・外国語観光ボランティアガイドを養成するために必要な経費を措置しました。（28年度）
- ・県内観光事業者の資金需要に対応するために必要な経費を措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

- ・ちば農商工連携事業支援基金事業等の支援策を広く周知するため、県内においてセミナーを6回開催しました。（27年度）
- ・東京オリンピック・パラリンピック等に向け、県内の観光・宿泊施設の経営者や従業員を対象とした、外国人観光客にも満足いただけるおもてなし力向上のための研修等を実施します。（28年度）
- ・日常会話が可能なレベルの語学力を有する方及び県内観光ボランティアガイド団体に所属している方を対象に、外国語観光ボランティアガイド養成講座を実施します。（28年度）
- ・27年度に引き続き、試験的に期間限定で都内にアンテナショップを設置し、県の観光PRや県内観光事業者の販路拡大のための県産品販売などの実証実験を行います。（28年度）

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	2 競争力のある観光産業の創出		コードNo.	Ⅲ-1-⑤-2																
担当課	商工労働部観光企画課、観光誘致促進課、 経済政策課、経営支援課、産業振興課		総合計画掲載ページ	197																
【指標による取組の判定】																				
指標の数：3 [うち目標を達成した指標の数：2 (67%)] 目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず																				
【主な取組の指標】																				
指標名：観光人材育成講座受講者数 (単位：人)																				
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度												
実績値				95	331	143														
目標値					100	105														
指標名：「ちば農商工連携事業支援基金」により助成を行った新商品開発等 支援事業件数（累計） (単位：件)																				
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度												
実績値	6	15	25	37	49	55														
目標値		15	25	34	48	60														
指標名：指標名：「ちば中小企業元気づくり基金（地域プロデュース支援事業）」 により助成を行った支援事業件数（累計） (単位：件)																				
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度												
実績値	2	9	17	31	38	46														
目標値		8	15	23	37	45														
<p>指標名：観光人材育成講座受講者数(人)</p> <table border="1"> <caption>観光人材育成講座受講者数(人)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実績値</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>95</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>331</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>143</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>									年度	実績値	目標値	H24	95	-	H25	331	100	H26	143	100
年度	実績値	目標値																		
H24	95	-																		
H25	331	100																		
H26	143	100																		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 戦略的な国内観光プロモーションの展開			コードNo.	Ⅲ-1-⑤-3
担当課	商工労働部観光誘致促進課、観光企画課 農林水産部流通販売課、水産局水産課			総合計画掲載ページ	197
年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
予算額	167,927千円 (9月補正後)	235,636千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()	
決算額	147,700千円	204,165千円	千円	千円	
【指標による実施状況の判定】			目標に届かず		

【主な実施事項と成果】

- 夏、秋、早春の季節に応じた観光キャンペーンを軸に、アクアライン料金割引の継続及び圏央道を活用して、年度当初から年間を通じた積極的なプロモーション活動に取り組みました。
- マスメディア（在京記者取材会、放送メディア）や交通広告、地域情報誌等の媒体を効果的に活用し積極的なプロモーションを展開しました。
- 平成24年4月に木更津アウトレットパーク内に開設した「チーバくんプラザ」を活用し、観光案内や観光イベントの開催などにより、県内各地への誘客を図りました。
- 新たな観光需要の掘り起こしを目的として、中京圏、北海道を中心に、7月及び9月に中京地区（計54箇所）、11月に札幌市内（9箇所）を対象に教育関係者や旅行会社を訪問する教育旅行キャラバンを実施したほか、名古屋市内での観光商談会や、東海地域、北陸地域の旅行会社を対象としたモニターツアーも実施し、修学旅行を誘致するプロモーションを積極的に展開しました。
- 10～11月の2か月間、県内の農林水産物直売所113店舗が参加した「ちばの直売所フェア」を開催し、スタンプラリーのほか、ちばアクアラインマラソンイベント会場でのPR、神奈川県川崎市でのキックオフイベント、神奈川県民を対象としたモニターバスツアーを実施しました。
- 年4回の農林水産物販売促進月間を設定し、7月に千葉市で実施した知事トップセールスをはじめ、首都圏の量販店等372店舗で「千葉県フェア」を開催し、千葉県産農林水産物をPRしました。

【今後の課題と取組方針】

〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕

- 季節に応じた観光キャンペーンの効果をより高めるためには、圏央道の延伸や2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催など、観光に有利な外的要因の機会を捉えて、それらを積極的かつ最大限に活用したプロモーションの実施が必要となります。
- 平成26年9月17日にリニューアルした観光ウェブサイトについては、アクセス数が目標を下回ってしまったため、原因の分析を進め、一層の周知に向けた取組が必要となります。
- 「ちばの直売所フェア」については、スタンプラリー応募者のアンケート結果やモニターバスツアー参加者の意見などをもとに、より魅力的な内容にし、一層の認知度と集客アップを図る必要があります。

- ・千葉県産農林水産物の魅力を、より多くの観光客に理解してもらうため、観光と農林水産業の連携を一層強化する必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・圏央道（神崎～大栄間）の開通により本県へのアクセスがさらに向上することから、北関東地域等に向けた観光PRイベントやスタンプラリーの実施などアクアライン及び圏央道を活用した観光プロモーションを実施します。
- ・観光ウェブサイトのアクセス数を高めるため、日本語サイトでは、旬の情報を毎月特集するほか、リニューアル後に新設した Facebook ページも活用し、本県の魅力的な情報を幅広く、タイムリーに発信します。
- ・「ちばの直売所フェア」については、好評だったスタンプラリーを継続するとともに、首都圏でのPRイベントを行い、より多くの方々に県内の農林水産物直売所を知っていただき、訪問していただくような魅力ある企画運営を行います。
- ・温暖な気候と豊かな大地に恵まれた千葉県産農林水産物の魅力を理解してもらうため、観光と連携した首都圏での農林水産物のPR及び販路拡大を推進します。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

〔コスト（予算）〕

計 186,756 千円

本県の知名度向上や観光客の一層の増加を図るため、観光プロモーション推進に必要な経費を措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

- ・平成27年6月に開通した圏央道（神崎～大栄間）及び28年度中に北関東地域の区間が全面開通予定のため、開通後アクセス向上により来訪が見込まれる北関東地域等を対象とした団体バスツアー優待プロモーションを実施します。（28年度）
- ・夏期に比べ観光入込客数が落ち込む秋の観光シーズンに、鉄道を活用した周遊観光プロモーション事業や千葉県道路公社有料道路の無料開放事業を実施します。（28年度）
- ・ホームページそのものの認知度向上のため、パンフレットやキャンペーンPRのためのリーフレットなどを作成する際に、ホームページのPRを記載したり、観光プロモーションのイベント時などに、ホームページを紹介するなどして、さらなる周知を図ります。（28年度）
- ・個々の観光施設・イベント等について、ホームページに掲載している情報の入力内容を見直し、検索サイト等での検索結果としてより上位に表示されるよう、情報の追記や修正を行います。
(28年度)
- ・ホームページのリピーターを増やすために、千葉県に関する幅広い魅力的な情報の発信を継続し、常に新たな情報を発信したり、多様なコンテンツを作成し、掲載します。（28年度）

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	3 戦略的な国内観光プロモーションの展開	コードNo.	Ⅲ-1-⑤-3
担当課	商工労働部観光誘致促進課、観光企画課 農林水産部流通販売課、水産局水産課	総合計画掲載ページ	197

【指標による取組の判定】

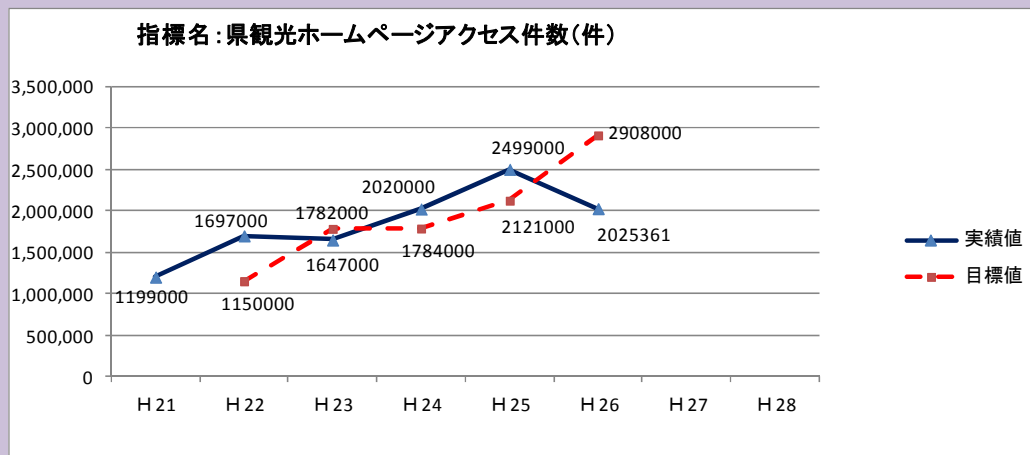
指標の数：1 [うち目標を達成した指標の数：0 (0%)]

目標を達成 ・ 目標を概ね達成 ・ 目標に届かず

【主な取組の指標】

指標名： 県観光ホームページアクセス件数 (単位：件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値	1,199,000	1,697,000	1,647,000	2,020,000	2,499,000	2,025,361		
目標値		1,150,000	1,782,000	1,784,000	2,121,000	2,908,000		



千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 国際的観光地としての地位の確立		コードNo.	Ⅲ-1-⑤-4
担当課	商工労働部観光誘致促進課、観光企画課、 経済政策課		総合計画掲載ページ	198
年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額	177,929 千円 (9月補正後)	230,774 千円 (当初予算)	千円 ()	千円 ()
決算額	162,688 千円	204,814 千円	千円	千円
【指標による実施状況の判定】			目標を概ね達成	

【主な実施事項と成果】	
1	<p>成田国際空港を有する優位性等を生かして外国人観光客を積極的に誘致するため、海外国際観光展でのPRや観光ミッション団の派遣、他県と連携した広域ルートの開発等を実施しました。</p> <p>特にビザの緩和等で大幅に訪日旅行者が増加している東南アジアに対しては、タイ王国、マレーシア及びインドネシアを選定し、積極的な観光プロモーションに取組み、マレーシアからは4校154名の教育旅行を誘致し、県内の学校との交流も実施しました。</p>
2	<p>県独自で運営していたホームページを廃止し千葉県観光物産協会サイトと結合することにより、本県の観光情報を一元的に発信することとしました。また、外国語のページでは、英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語・タイ語に加え、新たにマレー語のページを準備するとともに、外国語対応のフェイスブックも備えるなど、東南アジアなど海外からの観光客への訴求力を強化しました。</p>
3	<p>また、訪日外国人旅行者の要望の高い公衆無線LAN環境の整備のため、県内4市町村、民間3団体に対して補助金を交付し、宿泊施設や道の駅、館山城や洲崎灯台、養老溪谷などの観光地で公衆無線LAN整備が促進されました。</p>
4	<p>MICEについては、公益財団法人ちば国際コンベンションビューロー（CCB）を中心として、市町村や関係機関との連携により、誘致に取り組みました。平成26年度は、CCBにより、国際会議（JNTO基準）の誘致に33件成功しました。</p> <p>※件数はJNTO基準（参加者50人以上、参加国3カ国以上、会期1日以上等）による</p>
【今後の課題と取組方針】	
<p>〔課題（より効果・効率的に取組を実施するために解決すべき課題）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 成田空港を有しながらも、空港から県内各観光地への交通アクセス等の問題から、現在のところ、外国人旅行者を対象とした、県内を観光ルートとするツアーが少なく、本県が訪日外国人観光客の通過点となってしまっているという状況にあります。 平成26年9月17日にリニューアルした観光ウェブサイトについては、アクセス数が目標を下回ってしまったため、原因の分析を進め、一層の周知に向けた取組が必要となります。 2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け、今後国内外から多くの方が首都圏を訪れることが予想されます。この機会を確実に捉え、首都圏を実際に訪れる方々や日本に興味を持つ 	

ている方々に、千葉の魅力を戦略的に PR し、本県への MICE 誘致に繋げていく必要があります。

〔取組方針（課題を解決するための具体的な方策）〕

- ・外国人旅行者を対象にツアー参加者を募集している事業者向けに、県内のモニターツアーを実施していきます。
- ・観光ウェブサイトのアクセス数を高めるため、リニューアル後に新設した Facebook ページも活用し、本県の魅力的な情報を幅広く発信するとともに、プロモーションの度にウェブサイトを PR し、周知拡大を図っていきます。
- ・MICE の誘致については、CCB をはじめ関係機関との連携の強化を図り、より一層の誘致競争力の強化に努めてまいります。

【26年度の評価結果の反映】

〔組織・人員〕

訪日教育旅行の受入体制強化のため平成27年10月から嘱託を2名追加配置し、平成28年度においても継続して配置していきます。

〔コスト（予算）〕

計 456,368 千円

訪日外国人観光客誘致促進のために必要な経費を措置しました。（28年度）

〔事務改善〕

- ・台湾からの更なる誘致のため、新たに、台湾にて開催された旅行博へ出展及び商談会へ参加しました（27年度）。
- ・海外での PR 効果アップのため、英語、中国語（繁体字）、タイ語、マレー語による観光ポスターを作成しました（27年度）。
- ・観光ウェブサイトのアクセス数を高めるため、海外旅行博にて、観光ウェブサイトの PR を行いました（27年度）。
- ・東京オリンピック・パラリンピックに向け、県内における受入体制・誘客を促進するため、国ごとの嗜好性を踏まえた外国人向け周遊コースづくりを進めるとともに、各種媒体による効果的な情報発信を行います。（28年度）
- ・外国人観光客のプロモーションについては、従来の対象国に香港を追加し、事業費を増額して取組みを強化していきます。（28年度）

千葉県総合計画進行管理票（26年度）－主な取組－

主な取組	4 国際的観光地としての地位の確立	コードNo.	Ⅲ-1-⑤-4
担当課	商工労働部観光誘致促進課、観光企画課、 経済政策課	総合計画掲載ページ	198

【指標による取組の判定】

指標の数：2 [うち目標を達成した指標の数：1 (50%)]
 目標を達成 ・ **目標を概ね達成** ・ 目標に届かず

【主な取組の指標】

指標名：（補）外国人宿泊客数 (単位：万人)

	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年度	28年度
実績値	162	225	143	179	204	267		
目標値					180	189		

指標名：英語版県観光ホーム等ページアクセス件数 (単位：件)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実績値		175,673	202,085	176,468	321,558	238,386		
目標値					185,300	262,500		

